THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

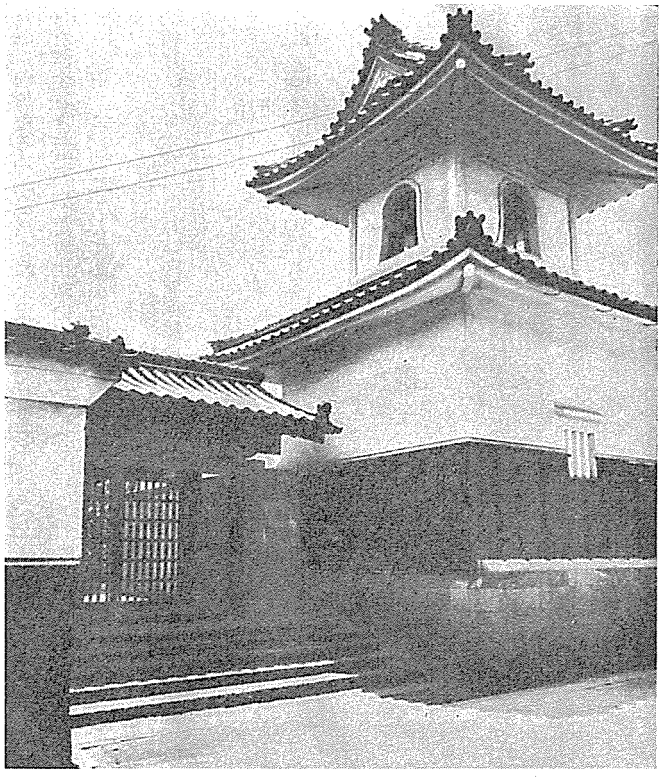
Osaka, Nov. 30th, 1955. No. 285.

關西大學學報

昭和二十六年十月十五日第種三郵便物認可
昭和三十年十一月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通巻第二八五号

昭和30年11月　第285号

創立七十周年記念号



關西法律学校正門
（河内町時代興正寺、1890年頃）

關西大學學報局

式辞

関西大学が本日創立七十周年を迎うるに当り、ここに内外朝野の貴賓の御臨席を得て記念式を挙行致しますことは、わが学園関係者一同の光栄として、洵に感激に堪えざるところであります。

本学は、明治十九年、大阪控訴院、同始審裁判所に在勤中の小倉久、井上操、堀田正忠等の諸先生が、控訴院長児島惟謙先生の賛同を得て創設されたものであります。当初大阪市内江戸堀願宗寺に於て開講しましたが、爾後校舎を移すこと数回、幾多の変遷を経て参りました。その間、明治三十七年には専門学校令による私立関西大学と改称し、大正十一年には、ここ千里山に地を相して新学舎を建設すると共に、大学令による大学に昇格、次いで昭和四年専門部を天六学舎に移し、以て現在の基礎を定めたのであります。

終戦後は学制改革によつて新制大学に移行し、他の大学にさきがけて大学院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講致しました。

創立当初、寺の本堂の暗いランプの下で授業を開始致しました一小学園は、時勢の進歩に従つて目覚しい発展を遂げ、今や内に教職員五百七十名学徒一万数千を擁し、外に五万の校友を有する、わが国有数の大学として揺ぎなき地位を確立したのであります。往時を顧み、転た隔世の感を禁じ得ませんが、本学発展の歴史は、将に刮目すべきものがあつたと信ずるのであります。本日この式典を挙ぐるに当り、創立者をはじめ本学のために顕著なる功績を残された先人に対し衷心から敬意を表すると共に、不断の援助を惜しまなかつた校友、一般有力者諸氏に対して心から謝意を表するものであります。

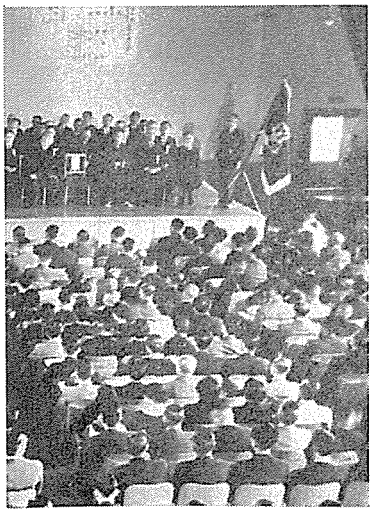
学園の創立は、日本が、新しい国家体制を急速に確立しようとしていた時代であります。本学はそうした時代の要望に応えて人材の育成に努め、理想を求めて現実を忘れず、真摯にして着実なる学風を醸成して来たのであります。

大学殊に私立大学が一国の文化に貢献し得る要素をその学風の中に見出すとすれば、本学は、斯くして、自らを恃んで権威に侯らわぬ最も堅実な国民の成就に力を致したことを些か誇りとするものであります。わが国は終戦後国力の回復と旧弊の改革に努めて参りましたが、国家の前途は甚だ多難であります。日本が文化国家として独自の文化を創造し、世界文化に貢献するためには、道はなお遼遠であります。しかも文化創造の力となるものは教育であり、教育の振興こそ最も緊要な問題であることを思えば、本学の使命もいよいよ重大なものがあるのであります。本学は、先人の献身的努力と校友各位その他の援助により幸い今日の大を為すを得ましたが、しかしながら、ここに七十年の式典を挙ぐる所以のものは、たゞ徒らに過去を追憶するためではありません。本学はこれを一つの契機として、更に今後の飛躍的な発展を期することを念願して居るのであります。学園五百七十名の教職員は、その崇高なる使命を自覚し、一致協力、益々研鑽に努め、以て本学の学風を宣揚し、国家社会の発展に寄与することを誓いたいと思います。

これを以て式辞と致します。（理事長）

創立七十周年記念式典を祝う

白川朋吉



創立七十周年記念式典にあたりて

岩崎卯一

関西大学の創立七十周年を記念する佳き日に、しかも、文部大臣、外国の使節、わが邦ならびに外国の名ある諸大学の代表者、各界知名の士の御来臨を辱うしているこの式上で、関西大学の教務を総理する学長の資格を以て、一言御挨拶を申述べますることは、ひとりわたくし個人の名誉でなく、わが学園で学問研究と学生教育とに専念して居ります数百の教職員一同の、ひとしく光栄とするところであります。

わが大学は、ただいま、大学院、大学学部、高等学校、中学校、幼稚園を以て構成され、一万五千余の学生、生徒、児童を擁する一つの綜合教育学園であります。これらのうち中核をなしているのは、法学部、文学部、経済学部、商学部の文化系四学部から成っている大学学部であります。

そこでは一万を遙かに越える学生達が、この式典が行われている千里山学舎と、大阪市内に位置している天六学舎とで学んでおります。

関西大学は、時の進みにつれて次第に大を加えて来ましたが、七十年前の創立以来今日まで終始一貫変わらないものがございます。それは、遠く明治十九年に本学の前身である「関西法律学校」を創立された初代校長小倉久先生その他数人の司法官達が遺されている建学の精神であります。これら創立者達の大部分は今の東京大学の前身である司法省法学校の卒業生で、フランスの法律学者ボアソナード先生からそこで直接の訓育をうけられた人人であります。ボアソナード先生が、その教え子達に「日本人は封建思想に染み、未だ法のなんたるかを解しないので、法によって自己の権利を守ることに無知である。諸君は国家の費用で法律を学ぶことが出来たのであるから、司法官や弁護士になることも大切ではあるが、それよりも、日本の人民に法律を教えることが、国家に報ずべき最も重要な諸君の天職である」と繰返し述べられた言葉こそ創立者達をして、わが大学の礎石を築く決意に赴かせたのであります。

明治二十二年に、僅か十七人の第一回卒業生を出した寺小屋のような学校から、現在のように三千人近くの卒業生を毎年社会に送りだす大学になったことは、天の時、地の利、人の和によったことは勿論でありますが、創立者達の崇高な精神と、五万人を超える卒業生達の強い母校愛と、社会各層から絶えず寄せられた御援助の賜であると固く信じて居ります。

この記念すべき式典を機会として、わが大学の発展途上に社会の各層から蒙った恩恵にたいし衷心からの感謝を捧げると共に、本学の建学精神を一層顕揚するよう決意を新たにする次第であります。（学長、法学博士）

創立七十周年記念式典式場

七十周年式典を迎えて

式典の日ひとり明日を想う——

久井忠雄

〝ローマは一日にして成らず〟まことにこの言葉は今日の本学の姿そのものであろう。

憶えば、昭和二十七年十月以降四ヵ年、微力を以て専務理事の栄職を汚し、今日の盛典に列する栄誉を辱うしたことは、身にあまる光栄とのみでは言い現わし得ぬ感激と忸怩とを覚えるのであつて、唯その間母校に対し、些かなりとも誠を尽し得たりとすることのみを僅に自ら慰むるよすがともする次第である。

云うまでもなく、大学は教育と研究との如何によつてその価値を決定するものであり、財政的によく処理された大学必ずしも良き大学とは言い得ない。即ち、財政は大学の為にあり、財政の為に大学が存在するのではない。これは財政を軽視又は無視するということではなく、かかるが故に財政は盤石の重みをもち、かりそめにも軽忽に附し得ざる重要さを有つのである。私が借金を質においても内容の充実を計りたいと強調するのは、教育と研究とを担当する教授陣容の強化あつてこそ大学の真価は発揮され、長い目で見ての財政も確立されると信ずるからである。

従つて本学の充実した内容を更に発展させるため是が施策を今後も果敢に計画し実行する。先ず、教授陣容の強化を前提として、海外・国内留学、図書、学会出張補助、学会開催援助、研究費補助、有給副手制度等の拡充整備をその内容とする。

これと併行して、教養科目、特に語学強化の為に、約六十人単位のクラス編成を行う教授方式を採用し、また短期大学部の昭和三十一年度よりの募集停止を機として、四学部に於ける教育成果の向上を図りたい。

前述のような内容充実策は、これを裏付ける給与制度の整備なくしては画餅となる。昭和二十八年度に於て確立した給与に関する法制化は自画自讃でなく、真に日本諸大学中の白眉であろう。この制度は、昭和三十一年四月から実施せんとする職員年金制度（約八百万円乃至千万円、金額学校負担）を以てその首尾を一貫し引続いてこれが再検討の段階に入るであろう。何故ならば、後述するごとく物的施設の充実の為に給与制度の合理的改善がうけている障害を可及的速に除去する必要があり、且、根本的には大学財政の究極は、教授の研究を扶け、学生の教育環境を理想化し、延いては大学の真価の確立発揮に奉仕することにあるからである。

次に施設の拡充は、第三学舎及第二運動場、並に屋内体育館、大学院、一中、小学校、学生会館、大学本部、理学部、工学部、医学部（綜合大学の完成）等の建設及整備を行わねばならぬ。而もこれらはその速度を出来得る限り軽快であらしめると同時に、根本問題たる内容充実を阻害せず、給与制度を少くとも公務員と均衡せしめ、且、職員をして母校愛と本学の大成という将来への希望を抱き続けしめ得る線に維持しながらでなくてはならない。

或は、これを表面的にみれば二者背反の解決絶望の問題であつて、今後授業料増額及学生数の増加は最早採るべき方法ではないが故に尚更であろう。しかしながらこれを揚棄するところにこそ将来への進路があり、本学の使命達成の鍵がある。試みに思え。現在約一万数千の受験者、しかも数回転のこの延人員が一回転の一万数千、否数万人にのぼる価値を本学が具えていないと誰が云いえようか。少ない数から優秀な者を選ぶより多い数から優秀な者を選ぶ道は遙かにいい。幼稚園から大学まで一貫して良い教育を受ける者の授業料が上下同額であつても不当ではあるまい。近き将来、本学の保育料は日本一高いものとなるであろう。これらは内容の充実と彼比相結ぶ因果の必然性をもつことは云うまでもない。

我々は亦、1＋1は3であり、時には10である結果を招来する精神力を忘却してはならない。西独乙と日本の復興発展の差異の顕著なことは疑うなき事実である。西独乙の経済相エルハルト氏は〝他国人は生活の為に仂き、西独乙人は仂く為に生活する〟と、いみじくも声高々と宣言する。この精神こそ両者の差異の唯一、根本のものである。この精神はまたボアソナード先生の言に応えた本学創始者の人々のそれであり、この伝統は、今日我々の血であり肉でなければならない。

真理を探究し、青年を育成するため生活する教授、大学の発展のため生活する職員・役員の力こそ、二者背反の絶望的難問を解決するポイントであり、世界的規模に於ける文化の結実を目指す本学の使命の血路でもある。

私は精神問題を掲げて本学発展の至上命題の解決を逃避せんとするものでなく、我信ずる故に千万人といえども我行かんとの自己反省の糧とし、不可能なる文字は我が辞書になしとの奈翁の故智に慣わんとする意を、この目出度き年に書き記して、過去を継ぎ未来をつなぐ一因子の責を全うしたいと誓うのみである。

私はこのことを宗教する。願わくば、この私の狂信的ともみえる言辞を、私が「関西大学教狂信者」である意味に於て寛恕せられんことを。（専務理事）

盛と衰!!

創立より今日迄我が関西大学は七十年の長い歳月の間に色とりどりの歴史を綴つて来たのである。今日迄の発展を来した蔭には、貴い犠牲の世界があつた事を見逃してはならない。

この貴い業績の上に乗つかつて、その部署その部署を守つている現在の関係者達は、過去の歴史に綴られた貴い努力に、真摯なる敬意と感謝の誠を捧げると同時に、之に対しより以上の発展を企劃し実行して、その労、その功に報ゆる決意を固めるべきだと思う。私は創立七十周年の記念の年は我が関西大学につながる人々の、歓喜の年であることに間違いないが、七十年前にこの大学を創立した当時の先輩達が意図した計画を知り、現在を顧み将来を想うべき年だと思う。

記念の年に反省する

矢野文雄

こゝにその一つとして考えたいのは、嘗つて明治十九年十月十三日附朝日新聞紙上、「関西法律学校の設立」を述べた記事の中に「汎く内外の法律及経済学を教授する一大専修学校を開き、追々関西の各地にも支校を置き、法学を修めんとする者の便を開かるゝ計画ありて……云々」と報じていることである。これは単に新聞記事の修飾にとゞまらないで、おそらく創立関係者達の斉しく抱いていた理想であつたに違いない。関東は慶応、早稲田等に附託しても、関西における学問はすべて本学に朝集すべきことを希い、東都の学校に対抗して関西に位置する日本の代表的学校たるの概を示したものというべく、さればこそ「関西」という名称を冠したのであろう。これはアメリカのカリフオルニア大学が、カリフオルニア州の八カ所に各学部又は分校を配置する一大綜合学園としてその権威を誇つているごときを夢み、貴い理想をうちたてたのであろう。

これらのことを想い回らす時、現在の姿を直視して現在の我々は将来の我が関西大学の進み方について再検討し、静かに反省すべきだと思う。先ず現在の経営陣は、現理事会を構成せる一人一人が我が大学発展のみを、日夜願望し思考し、議論し、常に大署高署に立つて大学経営に真剣なる努力をかたむけている「和」の理事会である。現在の積極政策が、誤もなく経営の面に現れているのも、熟慮し断行する要件をそなえたよき理事会なるが為である。

次に教授陣は!

努力の結果、充実し他の諸大学に比して遜色なく、学生の教育に専念し、また学術の研究の世界の扉を開いてその一人一人が深く、高くつきすゝんでいる事は事実で、これも此の年に喜び得る姿の一つである。また、附属高校、中学、幼稚園も独自の途をすゝんでいる。事務能率も急速度に向上して大きな助けとなつていることも、見逃せない事実だと思う。

この動きの中にある学生達も「我れ関大生なり」と誇高くもちつゝ、学問に、スポーツに精魂をうちこみつゝ大学生活により立派な人格と、よりシャープな学問へと努力を傾注している姿も、亦貴いものゝ一つである。

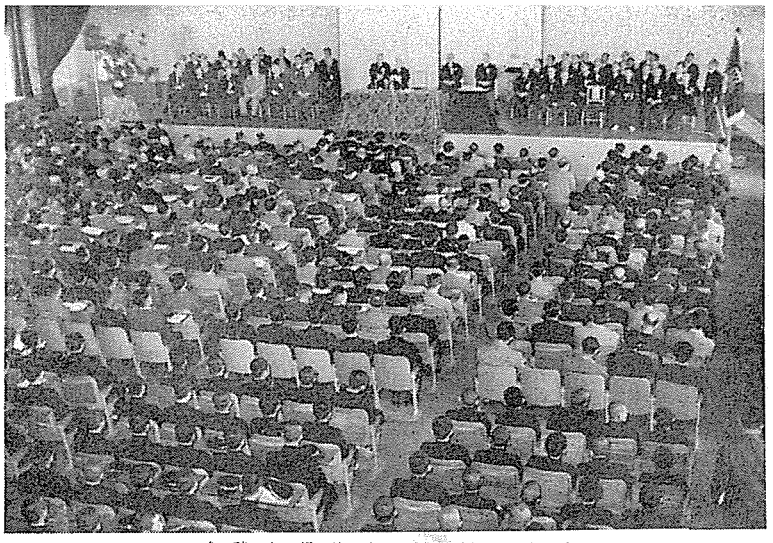
この現況に間違いはないが、我々はここで偷安の夢を耽るべきかどうか、我が大学を厳正に自己批判すべきだと思う。

—「これだけでよいのか」—そうではない。我が大学は、第二帝大でも古い伝統ある他大学の亜流でもない。我が大学には独自の伝統と歴史とがある。こゝでその主体性を確立すべきだと思う。我が大学が独自の境地を切り開きつゝ動いてきたか、又動いているか、将来又動いて行けるか。—他の後を追つた真似ごとでなかつたかどうか—。こゝでこそ静かに経営も教務も関大独自の方策を確固たる信念のもとに次の躍進へのため早急に確立すべき反省の年だという事を自覚すべきだと思う。今日迄の先賢の労苦を更に結実させることが我々の責任なのだ。「関西大学は世界に一つしかないのだ」。この言葉は至極平凡で月並ではあるが、これをよく吟味して然るべきだと思う。喜びの最高潮の年にこそ、次の飛躍の為に禍の種をのこす様なことのない様、自己批判をより厳正にすべきだと考えられる。

事実、我が大学は躍進途上を歩んではいるが、こゝで明確なる大方針を記念の年に樹立することを全員が決意すべきだ。この適正明確なる大方針のもとに全関大につながる人々が全幅の協力をして独自の境地を堂々と歩みつゞける限り、「世界に一つしかない関西大学」の本然の姿が貴くも輝き渡ることは間違いないのである。大学はあくまで学問の府である。こゝにこそ最高の理論があるのである。大学の発展にも様々の要件がいる。この要件をより充分満す様に全員は努力して理想的なる大学園建設の夢を、より早く実現すべきことを、この喜びの年に強く、固く、心の底深く覚悟すべきことを願つてやまない。この理想の実現の為には、各部面にまだまだ批判し検討すべき余地の多分にあることを断言し得るのである。而してこの歩みの中にある全学生が智、徳、を備えた立派な社会に役立つ人間として巣立ち行くことを願つているのである。かくの如く我が関西大学を理想的な大学へと発展せしめることに関係者が自覚した時、この創立七十周年の祝典は更に有意義となり前途の希望に輝やく喜びの極致だとも云える。関西大学はあくまで自主性をもつた理想的な大学である。その進む途が多事多難であつても力強く障害は除去すべきである。我が大学の前途は洋々として生命は永遠である。これから更に光輝ある伝統は貴くかゞやくであろう。（常務監事）

創立七十周年記念式典

明治の中葉、大阪の一隅に生まれ、関西地方を地盤として、あるいは学術研究に、あるいは物的施設に、目覚ましい発展を遂げ、今日わが国の代表的大学として偉容を誇るに至つた過去七十年の大学史を頌える創立七十周年記念式典は、かつて明治十九年関西法律学校として呱々の声をあげた十一月四日の佳き日を卜して、新装なつた千里山第一学舎において行われた。



式辞を朗読する白川理事長

この佳き日、紺碧に澄んだ空に一点の行雲なく、吹くそよ風に爽涼の秋をのせて、まことに記念日にふさわしい絶好の日和である。想えば明治十九年十一月四日は雨こそ降らないが、曇天（平均気温七・五度）であつたが、創立七十周年の記念日が日本晴になつたのも、創設者たちの喜びをあらわすものかも知れない。

定刻午前十時に近づくと、礼装の校友や各界の名士が、あるいは徒歩で、あるいは自家用車で参集する。

式場にあてられた大講堂では正面壇上中央に向つて左より久井専務理事、白川理事長、岩崎学長、矢野常務監事と着席、壇上左側には本式典参列のため来阪された松村文部大臣をはじめレヴイフランス大使など外賓、赤間知事、正田阪大学長、関西三大学長、西本理事など本学役員、中務、樫本評議員会正副議長が着席し、右側には内藤正剛氏など勤続功労表彰者が列ぶ。一般席には校友先輩、各界の名士など着席する後に、学部学生、一高及び一中生徒、参列するもの一、二〇〇名に及ぶ。

開式と同時に、全員起立して国歌「君が代」を斉唱し、厳粛の気式場に満つ。

白川理事長立つて創立七十周年を寿ぐ式辞（2頁参照）を朗読、七十年の歴史を顧みて創設者たちの偉業を偲び、また頌えれば、続く岩崎学長は本学建学の精神を過去にかえつて縷々と説く挨拶（3頁参照）に、現在をみるわれわれに懐旧の情新たならしめる。

続いて来賓各位の祝辞に移り、まづ松村文部大臣は本学七十年の歴史がわが国の文教興隆に寄与した貢献を讃え（8頁参照）、次いでフランス語で（9頁参照）、続いてイギリス大使デニングス氏の代理で副領事ギファード氏が見事な日本語で（9頁参照）夫々本学の歴史を頌えると共に将来を祝福する。更に日本私立大学連盟を代表して慶応義塾大学学務理事永沢邦男氏（8頁参照）、大学基準協会代表千葉大学長小池

来賓を迎える関

式典来賓芳名

（順序不同、敬称略）

松村謙三（文部大臣）
赤間文三（大阪府知事）
田中久男（防衛庁政務次官）
苫米地重男（大阪府人事委員会委員長）
浜田成政（大阪府教育事務局教育長）
真銅延次（大阪府教育課長）
中井光次（大阪市長「代理」）
色川幸太郎（大阪市人事委員会委員長）
山口冨次郎（吹田市長「代」）
沢木源助（吹田市会議長）
柴部光右衛門（吹田市教育委員会委員長）
村山長挙（朝日新聞社代表者「代」）
本田親男（毎日新聞社長「代」）
前田房吉（産業経済・大阪新聞社長「代」）
石井壽一（大阪日々新聞社長）
梅川雪夫（日刊工業新聞社）
星島秀四郎（夕刊岡山新聞社）
松方義三郎（共同通信社）
松村睦鴻（大阪駅長）
伊藤正瑞（神戸駅長）
小池敬事（大学基準協会会長）
永沢邦男（慶応大学学務理事）
正田健次郎（大阪大学長）
末川博（立命館大学総長）
中野義照（高野山大学長）
堀經夫（関西学院大学長）
大下角一（同志社大学長）
荒勝文策（甲南大学長）
世耕弘一（近畿大学長「代」）
野田清一郎（大阪工業大学長）
北川久五郎（大阪学芸大学長）
藤井勝也（京都薬科大学長）
増山顯珠（京都女子大学長）
柿沼三郎（大阪薬科大学長）
細川馨（大阪樟蔭女子大学長）

挨拶する岩崎学長

藤正剛氏に、教育職員は岩崎卯一学長に、事務職員は桂忠雄氏に、それぞれ栄ある表彰状を、満場拍手裡に授与した。

「自然の秀麗、人の親和…」と学部一部学友会ブラスバンドの伴奏で、全員起立して、「関西大学学歌」第一節を斉唱、「関西大学、関西大学」と連唱する声も、過去を頌え、将来への前進を謳うにも似て心強く感ぜられる。

次いで大阪大学長正田健次郎氏の発声で、「関西大学万歳」を三唱、了つて講堂をも圧する満場の拍手は、窓外に流れ出で、千里山丘上のしじまにこだまし

七十年の歴史を頌う

色づき初めた紅葉の梢を動揺さ。

かくて関西大学創立七十周年記念式典は、関西大学の過去の業績を頌え、将来への発展の一歩を踏み出して、善美をつくして盛大に挙行され、めでたく終了した。

祝賀午餐会

記念式典後、続いて第一学舎中庭にて祝賀午餐会が開かれた。

開会と共に白川理事長に続いて、大阪府知事赤間文三氏、大阪市長中井光次氏代理、吹田市長山口冨治郎氏代理が立つて、それぞれ式典祝辞を述べ、大阪を中心とする地域社会の文化的形成に寄与した貢献をたたえ、また教育後援会長石井寿一氏も大学の発展を祝すれば、来賓や校友有志より祝いの挨拶があつた。

続いて久井専務理事より国内及び外国よりの祝電を披露し、祝宴に入り来賓、校友うち混つて、互に式典を祝し合ひ、あるいは恩師と膝を交え、あるいは旧友と学窓を想い浮べて歓談尽きず、最後に前兵庫県知事岸田幸雄氏の「関西大学万歳」を三唱して、午後三時終了した。

敬事氏（11頁参照）らの祝辞あつて、本学第一回卒業生元貴族院議員内田重成氏が校友総代として懐旧の情うたた新に今日の発展を頌えれば（13頁参照）、学生生徒総代として学部一部学友会委員長永井安一君が将来の大学への希望をのせて祝辞を朗読する（13頁参照）。

各祝辞了つて勤続功労者表彰にうつり、白川理事長より役員の代表として内

祝賀午餐会

大貫広（久大紡績社長）
石崎顯二（朝日ビール大阪支社）
板谷宮吉（十合社長）
大喜多一雄（新日本放送常務）
吉田耕造（鐘淵紡績淀川工場長）
岸田幸雄（前兵庫県知事）
吉田八郎（大阪商船東京支社長）
和田薫（京阪神急行電鉄社長）
川戸定吉（大阪税関長）
原三郎（大阪国税局長「代」）
高田誠一（大阪貿易協会々長）
高橋信三（新日本放送専務「代」）
広田敬次郎（大阪證券業協会長）
堀武芳（日本勧業銀行頭取）
寺尾威末（大和銀行〃）
木村賢治（安田信託銀行〃）
石原新太郎（日本信託銀行〃）
松尾岩雄（松尾橋梁社長）
里村伸二（大同製鋼〃）
山岡孫吉（ヤンマーディーゼル〃）
佐野川谷安太郎（佐野安船渠株式会社社長）
内田重成（元貴族院議員（本学才1回卒業者））

外賓芳名

Great Britain 副領事 C. S. R. Giffard
U. S. A. 副領事 Harry M. Molland
France 大使 Daniel Levi
〃 総領事 Georges Perruche
Italy 領事 Virginio Chieri
Germany 領事 Friese
L'Université de Caen 代表 大使館文化部長 Christian d'Aumale
Princeton University 代表 大沢善夫（同志社理事 東京大沢商会社長）
Yale University 代表 長町彌（神戸兵庫平和協会牧師）

創立七十周年記念式典

文部大臣祝辭

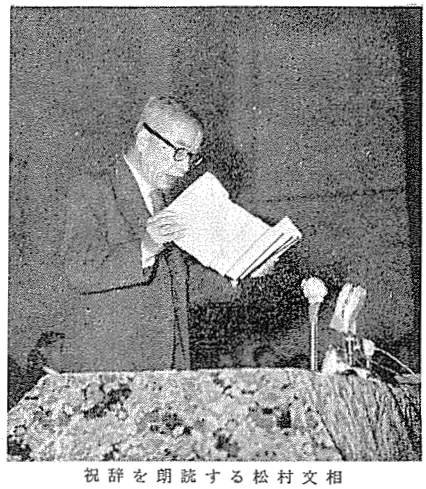
本学創立七十周年を記念して、本日ここに盛大なる記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝を述べる機会を得ましたことを深くよろこびとするものであります。

本学は明治十九年大阪控訴院を中心とする法曹界の有力者によつて創設された関西法律学校にはじまり関西における法律学校のさきがけをなしたものであります。はじめは独立の校舎もなく寺院等を借用して授業が行われましたが内容は年とともに充実し、早くからその声価を認められたのであります。明治三十六年はじめて西区江戸堀に校舎を新築してこれに移るに及び校運はとみに栄え翌年専門学校令による専門学校となり、ついで大正十一年大学令による大学に昇格し、大阪における最初の文科系大学として法学、経済、商業の三科をおくに至つたのであります。その後も、めざましい発展をつゞけ昭和二十三年学制改革に際しいち早く新制大学に移行して法学、文学、経済学、商学の四学部となし、後さらに大学院を設置して現在の大をなしたのでありまして、過去七十年にわたりわが国学術文化の興隆と国運の進展とに貢献された業績は真に輝かしいものがあります。本年創立七十周年を迎えるにあたり、かねて継続実施中であつた学園の整備計画も完了して、施設設備にほとんど間然するところなく隆々たる校運に恵まれつゝ、ここにはえある記念式典の行われますことはまことに慶賀に堪えないところでありまして、創立このかた本学建設のために力を尽された関係者諸氏の多年の御努力に対し、深く敬意を表する次第であります。

今やわが国は戦後十年を経てさらに一段の発展を期すべきときを迎え、国家社会のあらゆる分野にわたつて人物を求むること切なるものがあります。私学の振興が大いに期待されるとき本学の使命はまことに重大といわなければなりません。どうか教職員各位及び学生諸君には、本日の記念式典の意義の存するところにかえりみて決意を新たにし、光輝ある伝統のもと、ますます学風の発揚につとめ、もつて本学の使命を達成されるよう希望いたします。

昭和三十年十一月四日

文部大臣　松村謙三



祝辞を朗読する松村文相

日本私立大学連盟祝辭

関西大学七十周年記念式典御挙行に際しまして日本私立大学連盟加盟校の総意の下に御祝いの言葉を申述べますことは洵に慶びに堪えません。明治十九年本月本日関西法律学校として御創立になりました当時は憲法政治胎動の時期でありまして朝野に法律研究の必要が強く叫ばれている気運に乗じ魁げて大阪の地に法律教育の機関を設けられた創立者の方々の卓見と御苦心に先ず敬意と感謝の念を捧げます、爾来フランスの著名な法学者ボアソナード先生、日本の旧刑法、治罪法、旧民法の起草者として絶大な貢献をなされた同博士の御意志を体し、御薫陶に従つて綿々七十年の間、学のともしびを高くかゝげて我国の法律の進歩、法律制度の完備とその運用に携はる大量の人材の養成に尽された歴代学校当局者及び関係の方々の御功績は永く教育史上を飾ることでありましよう。単に法学のみならず現在は法、文、経、商の四学部、更に短期大学の附設、学の殿堂大学院の設置と次々に拡充されて、今や全学六百の教職員、一万七千の学徒、五万の校友を擁せられる巨大な綜合大学に発展されたことは洵に敬服いたします。

特に我が国商工業の中枢、大阪の地にふさわしく、学理と実際の調和即ち学の実化を教育の主目標として活気横溢せる御経営をなさつていることは学界、財界協力のきずなでありまして、貴学の過去の発展と将来の御隆盛の素因の一つとして特記に値するものと存ぜられます。

茲に謹んで今日の御盛儀を慶祝し御祝いの言葉といたします。

昭和三十年十一月四日

日本私立大学連盟

会長　大浜信泉

を讃える祝辞

フランス大使祝辭

仏大使　レヴイ氏

この盛典に列席するようわたくしを御招待下さつた御厚意に対し貴学の学長ならびに教授会にわたくしは感謝の意を表したいと思ひます。こゝにフランス諸大学の代表者として、それらの名において又わたくし自身の名において貴学の創立七十周年を記念するこの式典に際し、衷心より祝賀の辞を述べ得ることはわたくしの特に喜びとし且つ深く感謝するところであります。

一八八五年設立の、その前身たる関西法律学校から今日のみなさまの大学にいたるまで、それは何という見事な行路を経たことでしよう。今や貴学は最高学術の中心たる四つの大きな学部を、つまり綜合的な教育施設をすべて持つていられます。尚その上に見逃せないことには、こゝでわたくしがお目にかゝる方々はみな俊秀な教授方であります。そしてまたこゝの課程に在籍される幾千の学生諸君はこの大学の教育の価値の高さを証拠立てておられます。

日本においてもつともわたくしの心を打つた事の一つはその大学高等学校中小学校の数であり、その質と、それから若い人たちの学ぼうとする真摯さと意欲とであります。およそ一国の真の偉大さを根本的に形づく

Osaka, le 4 novembre 1955

Que mes remerciements aillent d'abord au Président et au Conseil de l'Université qui ont bien voulu m'inviter à participer à cette cérémonie. C'est un privilège dont je ressens tout le prix en même temps qu'un plaisir tout particulier que de me constituer ici le Représentant des Universités françaises et de vous apporter en leur nom comme au mien un message de cordiale félicitation à l'occasion de cette célébration qui commémore le 70ème anniversaire de votre Institution.

De l' Ecole de Droit du Kansaï en 1885, à son origine jusqu'à votre Université d'aujourd'hui, quel beau chemin parcouru! Vous groupez à présent quatre grandes Facultés, des centres de Hautes Etudes, enfin tout un ensemble d'établissements d'instruction. C'est, je ne l'ignore pas, toute une élite de Professeurs qu'il m'est donné de rencontrer ici, et les milliers d'étudiants inscrits à vos Cours attestent de la haute valeur de l'enseignement qui y est donné.

Une des choses qui m'ont le plus frappé au Japon c'est le nombe des centres universitaires, des lycées, fles écoles que l'on y rencontre; leur qualité; le sérieux et le désir d'apprendre de toute cette jeunesse. N'est il pas vrai que ce qui fait au fond la vraie grandeur d'un pays c'est moins le décompte de ses machines-outils, pour nécessaires qu'elles soient d'ailleurs — que la moyenne de la valeur spirituelle de sa population; j'allais dire: la quantité d'intelligcnce au kilomètre carré. Et n'avons-nous pas trop tendance à prèsent à substituer la notion trop facile du chiffre à celle de la qualité ?

Sur ce plan, et par delà toutes les vicissitudes de la politique, le Japon comme la France n'a rien à envier à quiconque. Après tout le seul combat valable est celui qui se livre dans le domaine primordial de l'esprit et par delà les particularités nationales, contre l'ignorance, contre l'impulsion de nos passions primitives, dans le but d'assurer dans sa Paix à l'Humanité tout entière une vie matèrielle et morale plus juste et plus aisée; en définitive plus de Sagesse et donc de Bonheur.

Au nom des Uuiversités, des Professeurs et des Etudiants de mon pays, je souhaite à l'Université du kansaï tout le succès, toute la prospérité qu'elle mérite.

Daniel Levi

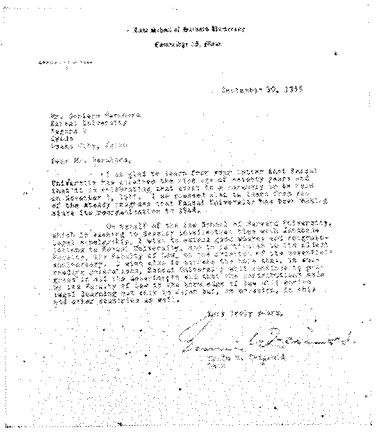
英領事ギフアド氏

I am happy to send you this message of congratulations on the occasion of the seventieth anniversary of your university's foundation. I recall with pleasure the visit which I paid to the Kansai University in 1951 impressed by the enthusiasm and when I was learning of its teaching faculty and students. I hope that your university will continue to make its important contribution to Japanese education for many years to come.

Sir Esler Dening :

Her Britannic Majesty's
Ambassador Extraordinary
and Plenipotentiary in Japan.

祝いのメッセージ

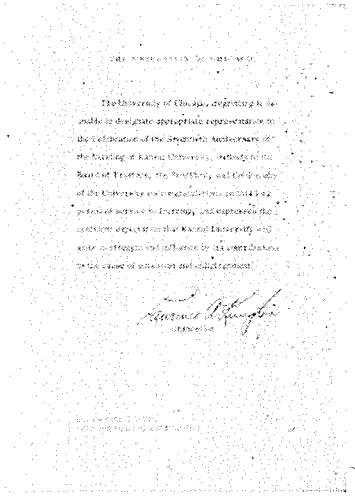


Law School of Harvard University

On behalf of the Law School of Harvard University, which is seeking to develop intellectual ties with Japanese legal scholarship, I wish to extend good wishes and congratulations to Kansai University, and in particular to its oldest Faculty, the Faculty of Law, on the occasion of its seventieth anniversary. I wish also to express the hope that, in succeeding generations, Kansai University will continue to progress in all its departments and that the contributions made by its Faculty of Law to the knowledge of law will enrich legal learning not only in Japan but, on occasion, in this and other countries as well.

Very truly yours,

Erwin N. Griswold,
Dean



THE UNIVERSITY OF CHICAGO

The University of Chicago, regretting it is unable to designate appropriate representation to the Celebration of the Seventieth Anniversary of the founding of Kansai University, extends to the Board of Trustees, the President, and the Faculty of the University its congratulations on this long period of service to learning, and expresses the confident expectation that Kansai University will grow in strength and influence by its contributions to the cause of education and enlightenment.

Lawrence A. Kimpton
Chancellor

るものは、それがいかに必要だとしても機械工具の数量であるよりは、むしろその民衆の精神的価値の平均値、言はゞ平方キロの知性の量ではありますまいか。そしてわれわれは現在、質の観念に量のあまりにも安易な観念を置換へる傾向を持ちすぎてはいないでしようか。

この立場において、政治的浮沈を超えて、日本はフランスと同様あれこれと羨むべき何物をも持つていません。要するに唯一の価値ある戦いは精神の根元的な領域において、国民的特性を超えたところに、全人類に平和のうちに最も正しく最もゆたかな、結局もつとも賢明でだからもつとも幸福な物質的精神的生活を確保することを目標として、無智と我々の未開の感情の衝動とに対して、行われる戦いであります。

わたくしはわたくしの国の大学及び教授学生たちの名において関西大学に、その値いする御成功御繁栄を祈つてやまないものであります。

一九五五年十一月四日

日本駐在フランス大使
ダニエル・レヴィ

イギリス大使祝辭

関西大学の第七十回開校記念日に当り、このお祝のメッセージを御送りすることは、私の喜びとするところであります。

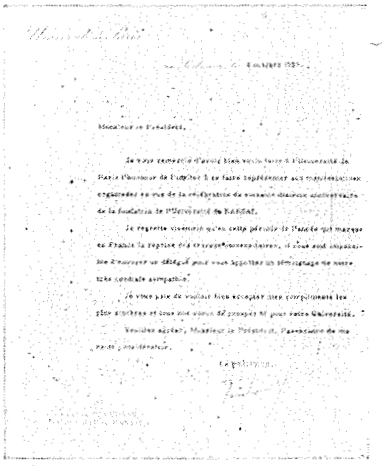
私は昭和二十六年にこの大学を訪問したことをなつかしく、思い出しますが、その時学校当局や学生諸君の熱意と学究態度とに打たれたのであります。

今後この大学が益々発展して、日本の教育に重要な貢献をせられんことを祈ります。

昭和三十年十一月四日

日本駐在英国大使
サー・エスラー・デニング

外国諸大学からの



Université de Paris

Je vous prie de vouloir bien accepter mes compliments les plus sincères et tous nos voeux de prospérité pour votre Université.

Veuillez agréer, Monsieur le Président, l'assurance de ma haute considération.

Le RECTEUR

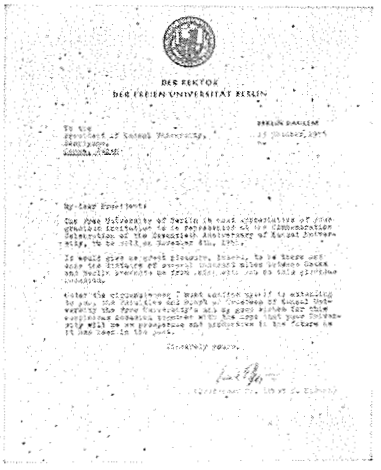
Jean Sarrailh

FREIE UNIVERSITÄT BERLIN

Under the circumstances I must confine myself to extending to you, the Faculties and Board of Trustees of Kansai University the Free University's and my good wishes for this auspicious occasion together with the hope that your University will be as prosperous and productive in the future as it has been in the past.

Sincerely yours,

Professor Dr. Ernst E. Hirsch



大学基準協会代表祝辭

本日新装成つた関西大学が創立七十年の記念式を挙行されるに当り、私が大学基準協会を代表して参列することを得ましたことは、まことに光栄の至りであります。謹んで御祝詞を申上げます。

関西大学の古き歴史と尊き伝統を誇りとする建学精神が今、目のあたりみる関西大学の飛躍的発展をもたらせたことは改めて申すまでもありません。

戦後我国の学制殊に大学制度は実に劃期的に変革され、大学は特に教育機関兼、研究機関として、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることになりました。そして真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤務と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民を育成するという大使命が課せられたのであります。私共の大学基準協会はそうした大学基準に適合したことを審査承認した国立大学、公立大学、私立大学をメムバーとする公的機関であります。現在その資格ありと認めたものは、全国の国立大学、公立大学、私立大学二百二十数校の内、僅かに二割余りの四十数校でありますが関西大学はその中の有力なメムバーであり、現に理事、基準委員、会員資格審査委員を出しておられる有力なメムバーであります。

私が関西大学がこの記念式を契機として一層内容を充実され、新時代にふさわしい大学として隆興発展されんことを衷心から希つて已まないものであります。これを以て祝辞といたします。

昭和三十年十一月四日

大学基準協会代表

千葉大学学長　小池敬事

祝いのメッセージを寄せられた外国諸大学名

United States of America:

The University of Chicago:
Mr. Lawrence A. Kimpton, Chancellor.

Columbia University:
Mr. Grayson Kirk, President.

Harvard University Law School:
Mr. Erwin N. Griswold, Dean.

Harvard University:
Mr. Powell M. Cabot, University Marshal.

University of Pennsylvania:
Mr. Gaylord P. Harnwell, President.

Princeton University:
Mr. Alexander Leitch, Secretary.

Yale University:
Mr. Reuben A. Holden, Secretary.

The Rockefeller Foundation:
Mr. Charles B. Fahs, Director of Humanities.

United Kingdom of Great Britain:

University of Cambridge:
Mr. R. M. Rattenbury, Registrar.

University of Edinburgh:
Mr. Charles H. Stewart, Secretary to the University.

The University of Grasgow:
Sir Hector Hetherington, Vice-Chancellor and Principal.

University of London:
Mr. J. Hood Phillips, Secretary to the Senete.

Oxford University:
Sir Douglas Veale, Registrar.

France:

Université d' Aix-Marseille:
Monsieur le Recteur J. Blache.

Université de Bordeaux:
Monsieur le Recteur Émile Delage.

Université de Caen:
Monsieur le Recteur P. Daure.

Université de Lille:
Monsieur le Recteur Guy Debeyre.

Université de Paris:
Monsieur le Recteur Jean Sarrailh.

Université de Poitiers:
Monsieur le Recteur A. Loyen.

Université de Strasbourg:
Monsieur le Recteur René Hubert.

Université de Toulouse:
Monsieur le Recteur Paul Dottin.

Deutschland:

Freie Universität Berlin:
Herr Rektor Dr. Ernst E. Hirsch.

Universität München:
Herr Rektor Dr. M. Westhues.

Rheinische Friedrich Wilhelms-Universität:
Herr Rektor Dr. Werner Richter.

Switzerland:

Université de Genève:
Monsieur le Recteur Henri de Ziégler.

Universität Zürich:
Herr Rektor Dr. Walter Gut.

Italy:

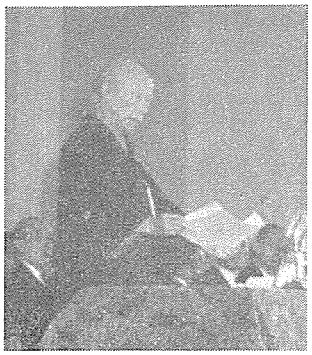
Università Degli Studi di Napoli:
Signore il Rettore G. Quagliariello.

Università Degli Studi di Milano:
Signore il Rettore G. M. de Francesco.

Università Degli Studi di Roma:
Signore il Rettore Giuseppe Ugo Papi.

校友代表祝辭

内田は本大学と因縁浅からざるこの関西法律学校一期卒業生の一人たる御蔭によつて、校友として光輝ある七十周年記念式典に参列し祝詞を述ぶる光栄を有します。本大学が一意国家発展世界文化に貢献のため蔞々発展を遂げられ以て赫耀無比の大を致されたる稀有の歴史に鑑み其の将来は何処迄発達するに至るか予卜を許さぬ程の盛況を見て之を喜ぶと共に其の歴史の反面には蓋し汗と涙と血の痕跡を発見するものであろうと思い何と挨拶し何と讃美頌慶し奉る可きや久濶忘恩の譏を免れざるを知る私は千言万語を以つてするも衷情を表現するに足る可き適当なる言辞を発見することが出来ません僅かに古人に倣て目出度可祝の五字を唱へて満腔の敬意敬祝の至情を表するに止めます。但少し物足らぬ気が致しますので八十八翁七十年前回顧の一節を語るの御許を御願致します。



第一回卒業生内田重成氏

西南役後欧化思想朝野を震盪しルーソー主義の自由民権論は条約改正、国会開設の大詔、憲法其他各種法律案調査等に刺戟せられて東京には官私法学校の簇出に拘わらず関西に一校もあらざるを慨せる在阪の識者は明治十九年春大阪に関西法律学校を創立せられ北区某寺院を以つて之に充て四分松板長方形の机腰掛の外何等設備無し生徒約四五十人司法官井上操、小倉久、水上長次郎、手塚太郎、鶴見守義、堀田正忠、遠藤忠治、野村鉦吉、外に渋川忠二郎の諸学士が無報酬にて犠牲的に来り講ぜられた刑法、治罪法の外成文法なき時代にて仏法及諸法律法案等に基き専ら法理を説かる。官余講義案作成の御苦辛の並々ならざりしことを承て居る法学書、法学雑誌、文献等なく原書解読の力なく無いない尽しの時代、学生は耳と手を働かせ禹々として講師の片言隻語も筆記した。当時の教育は詰込教育の一途にて別に心身訓諫的特別の施設も課程もあらず諸先生は質実剛健の気風を作興すべく身を以て垂範せられ時に寸鉄を打込まれた。今なほ記憶に存する一、二を挙ぐれば自治自助の話、人間は我俱即ち我利本位であつてはならぬ話、人類の進歩は犠牲精神を発揮した人々の力によると云う話、仏日国体国情を異にするルーソー主義惑溺を戒ましめられ将来の立法は日本的でなければならぬ等である。生徒は勤倹力行夜眠も三四時間位にて無暗に勉強した。学費は月額五円位が例であつた。学生は何れも時潮には耳目を蔽ひ研学に真面目であつた。東京に出た大部分がヒケを取らざりし所以は大阪時代の真剣味の御蔭であつたと思う。

当時発展途上の日本人口四千万而も諸般の学芸未熟の秋学校卒業生の就職の容易なりしに引換へ今日の大学卒業生の就職状態は同情に堪へない。方今我思想界の混乱寒心無極、この侭にては一層混乱に陥入であろう。近く文部省が此の問題を御取上げ相成り深く御研究下さるとのこと、寔に結構であります。拙速によろしい、一日を緩にすべからず研究調査に曠日弥久斉東野人をして日暮れ道遠の嘆を発せしめざらんことを願して置きます。場所柄を弁せず長々の昔語り畢竟師恩益友を偲び併せて今昔比較の一端にもとの考えからでありますす多罪御寛恕を御願致します。

昭和三十年十一月四日

校友　内田重成

校友も在学生も　式典を祝う

学生代表祝辭

今日此処に七十周年を迎え、めでたく記念式典が盛大に行われるに当り関西大学全学徒を代表し心から喜ぶものであります。

明治十九年創立されました我関西大学は専門的な学術の研究を最高の目標として激しい時代の変遷の中に今日に至りましたことは学校当局を始め、関係者の皆様の御努力の賜の外無く深く感謝の意を表する次第であります。

我関西大学は岩崎学長を中心として恵まれた大自然の中に白亜の殿堂を擁し、我等在籍学生は実に一万五千を数えるのであります。かつて千里ケ丘に北斗の星をあおぎ卒業なされた幾多の諸先輩は今日社会のあらゆる階層に於いて御活躍されていることは誠に心強い限りであります。と共に関西大学に於いて七十周年の光輝ある歴史が今日を機会として更に高次への進展を遂げることを期待するものであります。

簡単乍ら御祝の詞に代えさせて頂きます。

昭和三十年十一月四日

関西大学学友会執行部
委員長　永井安一

功労表彰者

宮島　綱男氏　明治十七年生、①愛知県、②明治四十一年早大商卒、③役員六期、十四年四ケ月、④明治四十三年より英、仏、白に留学、大正二年帰国後早大教授に就任、同十一年本学教授次いで理事、専務理事、理事長に歴任、その他、国際労仏会議日本使用者代表常任顧問兼国際労仏局理事、神戸日仏協会副会長、同協会附属神戸仏語学校長、関西日仏学校評議員兼教授、同国際経済研究会長、財団法人日本経済専門学校理事、日本工芸美術協会長等歴任

白川　朋吉氏　明治六年生、①香川県②明治二十七年関西法律学校（本学の前身）在学同三十一年中大卒、③役員六期、十四年三ケ月、④明治三十一年弁護士開業、大阪市会議長二期八年、大阪市教育会評議会議長、琴平電鉄会社相談役、その他電鉄会社重役を歴任、大正六年十二月監事就任、昭和二十七年二月理事長に選ばれて現在に至る。

武田　宣英氏　明治三年生①東京都、②明治二十二年関西法律学校卒、明治四十年独乙ライプチヒ大学留学、法博、③役員六期十八年三ケ月、④大正九年本学協議員になり、昭和四年以後本学監事、理事、顧問を歴任、弁護士開業、五十年の長老である。

内藤　正剛氏　明治十六年生、①兵庫県、②明治三十七年関西法律学校卒③役員六期、十八年一ケ月、④明治四十一年弁護士を開業、大正七年十二月本学が社団法人となりたる後、同九年本学協議員、理事、監事等多年に亘り、大阪市会議員、大阪府会議長、衆議院議員当選数回に及ぶ。

原田鹿太郎氏　明治二十二年生、①兵庫県②明治四十三年、関大専法卒、③役員四期、十二年三ケ月、④本学卒業後弁護士を開業かたわら、本学講師に就任、昭和十三年三月監事、同十六年三月以降三期続いて理事、同二十五年本学顧問、校友会副会長等。

神戸　正雄氏　明治十年生①京都府、②明治三十三年東大法卒、法博、③役員三期、七年五ケ月、④明治三十五年京大教授、昭和十一年本学講師、同十二年本学学長に就任、帝国学士院会員、京都大学名誉教授、前京都市長

春原源太郎氏　明治三十九年生、①長野県②昭和七年関大法卒、③役員三期、八年八ケ月、④昭和六年より弁護士を開業かたわら、同十一年本学専門部講師に就任のち昭和二十四年四月より三期続いて理事、専務理事歴任。

矢口　家治氏　明治二十四年生、①京都府②大正六年京大法卒、③役員三期、六年五ケ月、④京大卒後裁判所判事、高岡高商教授、東京控訴院判事、昭和十六年本学専務理事、理事　関甲、一中、一高校長歴任、現一高校長

岩崎　卯一氏　明治二十四年生、①佐賀県②大正四年関大専法卒米コロンビア大学卒、法博、③三十四年五ケ月、④大正十年二月ドクトル・オブ・フイロソフィーの学位を得、帰国後本学教授に就任、九大、京大の講師、本学法文学部長、同図書館長を歴任、昭和二十二年学長並に理事に就任、同二十八年学長に再選。

三島　律夫氏　明治三十四年生、①広島県②大正十一年関大専商卒、③三十三年九ケ月、④関甲商教諭のかたわら、本学学報初代編集員、初代校友課長嘱託関大二商、一高、専門部講師等兼務現在関大一中校長並に関大評議員

森川　太郎氏　明治三十四年生、①兵庫県②昭和三年関大経卒、経博、③三十年八ケ月、④本学二商教諭より、同二十一年本学経済学部教授、同部長、翌年図書館長、本学大学院教授兼任、同二十七年本学理事

河村　宜介氏　明治三十年生、①山口県、②大正十年関大専商卒③二十七年九ケ月、④昭和三年本学講師に就任、同四年本学助教授、同専門部主事、教授、商学部次長等。

木村　健助氏　明治二十七年生、①岐阜県②大正十年東大法卒、③二十七年九ケ月、④大正十三年京大大学院、仏国に留学、帰国後昭和三年本学講師同四年教授に就任、のち本学専門部長理事、専務理事等歴任本学大学院教授兼任。

中谷　敬寿氏　明治三十三年生、①滋賀県、②大正十四年京大法卒、法博、③二十七年九ケ月④京大大学院

輝やく勤續

昭和三年本学専任講師、同四年本学教授に就任、大学院部長兼任、関大評議員。

矢口孝次郎氏 明治三十六年生、①長野県、②昭和二年東京商大卒経博、③二十七年九ケ月④昭和三年本学講師に、同四年助教授、同九年本学教授となり、同二十五年短大部長、大学院教授兼任

堀　正人氏 明治三十六年生、①兵庫県、②大正十五年京大英文卒③二十七年四ケ月④昭和四年本学教授に就任、大学院教授兼任。

飯田　正一氏 明治三十四年生、①栃木県、②昭和二年早大文卒、③二十六年九ケ月④昭和四年本学講師、のち助教授を経て、同九年教授に就任、本学大学院教授兼任。

和田　豊二氏 明治三十一年生、①福井県、②昭和三年関大法卒、③二十四年五ケ月、④昭和五年本学講師に就任、同七年助教授を経て教授に就任、専門部主事、関甲商校長、同二十五年理事、短大部長兼務等歴任。

高橋　盛孝氏 明治三十二年生、①兵庫県、②大正十二年東大文卒、③二十三年三ケ月、④昭和二年本学講師に就任、同十二年教授、専門部長、大学院教授兼任。

山田松太郎氏 明治三十一年生、①大阪府、②大正八年早大英文卒、③二十三年三ケ月、④昭和四年本学講師に就任、同十一年教授、本学予科長、学生部長、大学院教授兼任。

角田　文雄氏 明治四十一年生、①兵庫県、②昭和七年九大法文卒、③二十三年九ケ月、④昭和八年関甲商校教諭、同十四年専門部講師、同二十五年短大教授

中川庸太郎氏 明治二十九年生、①奈良県、②大正六年関大専経卒、③二十二年二ケ月、④米国コロンビア大学に留学、帰国後昭和六年本学講師に就任、助教授同十一年教授本大学院教授を兼任。

大小島真二氏 明治三十二年生、①大阪府、②大正十四年東大文卒、③二十年九ケ月、④昭和二年東大大学院、同九年本学講師に就任、同十一年教授、大学院教授、図書館長兼任。

川上　敬逸氏 明治三十七年生、①大阪府、②大正十五年関大専経卒、昭和四年九大法卒、③二十年九ケ月④九大副手、昭和九年本学講師に就任、教授、同二十七年法学部長、大学院教授兼任。

桂　忠雄氏 明治二十六年生、①京都府、②大正六年関大専法卒、③四十二年九ケ月、④大正六年本学書記、昭和四年会計主任となり、同十年庶務課主任を経て、同二十二年参事、同経理局長に就任、関大評議員。

池田信之助氏 明治三十七年生、①大阪府、②昭和四年関大専英卒、③二十六年三ケ月、④昭和四年本学書記、同十九年教務主任、同二十二年教務課長に就任。関大評議員。

鈴木　末広氏 明治三十九年生、①大阪府、②昭和十一年関大専法卒、③二十四年九ケ月、④昭和十三年本学書記、予科教務課長、同二十八年天六事務課長を経て、同二十九年短大教務課長心得、庶務課書記。

原　幸作氏 明治三十四年生、①大阪府、②大正七年佐山農学校卒、③二十三年九ケ月、④昭和七年本学雇員、同二十一年書記補、同二十七年書記、同二十八年より本学会計課勤務。

安井　章吾氏 明治三十七年生、①三重県、②昭和四年関大専国卒、③二十一年五ケ月、④昭和九年本学書記、同十八年庶務課長、現在校友課長。

記事中①は出身府県②は出身校③勤続年数④略歴を示す

今回の表彰基準は左の通りである

一、役員は三期以上

二、教職員は二十年以上

× × ×

慰　霊　祭

創立七十周年記念式典に先だち、創立以来今日までその在世の時代に応じて本学の発展のために努力された物故先輩学員に対して、今日の発展を報告し、以つてその霊を慰める慰霊祭は、午前九時より第一学舎二〇二教室に於て挙行された。

式に先だち官幣大社 生国魂神社 神官（八名）の祭事を行い、式典委員長 白川理事長は恭々しく霊前にすゝみ祭文（左記）を奉読した後、委員長及び委員は順次玉串を捧げ、次いで物故学員遺族の玉串捧献に移り、縁故ある人々の在りし日の業績と面影とを偲んで式を修了した。

物故学員芳名

創立関係者　井上操、大島貞敏、児島惟謙、志方鍛、鶴見守義、手塚太郎、土居通夫、堀田正忠

校長　小倉久、水上長次郎、有田徳一、一瀬勇三郎、

校主　吉田一士

物故学員慰霊祭

祭文

本日関西大学創立七十周年ヲ迎ウルニ当リ、茲ニ仮ニ壇ヲ設ケ、本学発展ニ多クノ力ヲ致シタ先輩各位ノ霊ヲ祭リソノ御前ニ謹ンデ申上ゲマス。

明治十九年、ワガ関西大学ガ法曹界ノ先覚者ニヨツテ創設セラレ、関西法律専門学校ノ名ノ下ニ授業ヲ開始シタ時ハ、ワズカニ講師六名、学生二百数十名ヲ算ウルニ過ギマセンデシタ。シカモワガ大学ハ、時勢ノ進運ニ伴ツテ目覚マシイ発展ヲ遂ゲ、今ヤ四学部・大学院・短期大学部ノ外ニ三ツノ附属学校ヲ有スル一大綜合学園トシテ、私学ノ雄ヲ誇ツテ居リマス。創立当時誰ガヨク今日ヲ思イ得タデアリマセウ。洵ニ隔世ノ感ニ堪エナイモノガアリマス。私ハ茲ニ創立ニ参画セラレタ各位ガ、時代ノ要望ヲ明察シ、本学ノ嚮ウベキ道ヲ拓カレタコトニ対シ、改メテ畏敬ノ念ヲ禁ジ得ナイモノデアリマス。同時ニ、本学ガヨク今日ノ大ヲ為シ得タモノハ、創立者ノ意図ヲ継承サレタ先輩各位ノ卓抜ナ識見ト不屈ノ努力ニ負フモノガ多イコトハ、イウマデモアリマセン。私学ノ歴史ハ、苦難ノ歴史デアリ、私学ハ過去ニ於イテ官学ヨリ遙カニ不利ナ立場ニ置カレタコトモアツタノデアリマス。私学ハ殊ニ自ラノ力ヲ以ツテ嶮シイ道ヲ伐リ開イテ行カネバナリマセンデシタ。シカモ各位ハソウシタ困難ナ条件ノ下ニ本学発展ノ為撓マザル苦闘ヲツヾケテ来ラレタノデアリマス。各位ガヨク大学ノタメ献身セラレタコトニ対シ、心カラ感謝ノ念ヲ捧ゲルモノデアリマス。私共ハ、イマコノ輪奐ノ美整ツタ千里山学舎ニオイテ、各位ト相共ニ親シク大学ノ歴史ヲ顧ミ、大学ノ将来ヲ語リ得ナイコトヲ深ク残念ニ思ヒマス。

然シナガラ、各位ニヨツテ培ハレタ不抜ノ精神ハ、私共ノ中ニ強ク脈打ツテ居リマス。各位ニヨツテ与ヘラレタ確固タル自信ハ、ワガ学園ノ明日ノ発展ニ直接ツナガルモノデアルコトヲ疑イマセン。私共ハ各位ガ築カレタ光栄アル七十年ノ歴史ヲ誇ルト共ニ、コレヲ契機トシ、各位ノ心ヲ体シテ更ニ覚悟ヲ新ニスルモノデアリマス。大学ノ生命ハ永遠デアルコトヲ思ヘバ各位ノ偉業ヲ継承シ、各位ノ負托ニ応エルコトガワレワレノ責務デアリ、以テワガ関西大学ヲ日本文化ノ一中心タラシメルコトヲ念願シタイト思ウモノデアリマス。翼クハ、学園発展ノタメニ、幸イ加護ヲ垂レ給ハンコトヲ。

コヽニ謹ンデ各位ノ冥福ヲ祈リ上ゲマス。

昭和三十年十一月四日

理事長

白川朋吉

学長　加太邦憲、河村善益、古荘一雄、斎藤十一郎、織田万、山岡順太郎、松本烝治、仁保亀松

理事長・協議員　松本静史

専務理事・協議員　喜多村桂一郎、玉木三郎、垂水善太郎

理事・協議員　岡村司、柿崎欽吾、黒田荘次郎、砂川雄峻、遠部逸太郎、八鳥治一、増山忠次、吉田音松

監事・協議員　稲垣虎二郎、大鐘彦市、竹田省、武内作平、山口房五郎

協議員　板垣不二男、板野友造、入江真太郎、上村豊、烏賀陽然良、勝田永吉、川勝武夫、川崎斉一郎、北浦圭太郎、木村清、小林芳郎、後藤武夫、斎藤常三郎、渋川千之助、渋川忠二郎、菅沼豊次郎、須々木庄平、武田貞之助、武内省三、永田良雄、荻原敏隆、平田譲衛、広瀬徳蔵、松沢卓規、松村敏夫、南薗爾、宮本英脩、村松岩吉、森内梅吉、安川彦夫、山田正三、吉崎亀之助、横山鉞太郎

評議員　安宅弥吉、飯国荘三郎、太田光熙、喜多又蔵、北畠治房、佐多愛彦、住友吉左衛門、関一、高木利太、田所美治、谷田三郎、橋本重幸、藤田平太郎、藤田伝三郎、堀啓次郎、松本重太郎、村山竜平、本山彦一、山室宗文

顧問　桑田熊蔵

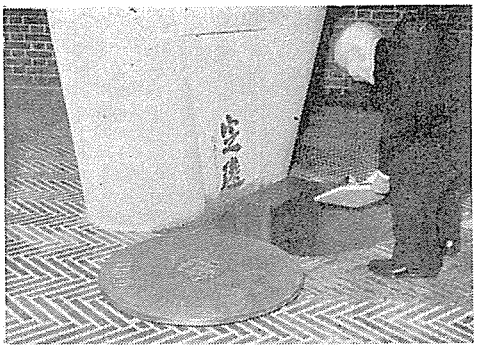
教授　安藤光、内多精一、佐々穆、佐々木富五郎、新町徳之、徳尾俊彦、中島繁亀、平井淳一郎、藤沢章次郎、本荘鉄次郎、村上喜貞、安川安太郎、吉木一朗

教諭　安達金城、秋山卓爾、石川登、飯田清蔵、神田栄吉、後閑宣太郎、島田菊次郎、関根稔、中村唯一郎、宮崎繁太郎、室石常秀、村方敬三、東清一、山中一明

書記　木戸卯之助、木下孫一、堀内瞭、田川七郎、田所留三、竹腰吉治、野村吉蔵

講師　細江逸記

小使　鎌田長次郎、長谷川重平、吉田亀太郎



定　礎　式

戦後新制大学に移行して、施設の近代化及び学生数の膨張に応じて、さきに五ケ年計画をもつて施設拡充に着手したが、この程その第一期工事が完成したので、創立七十周年記念式典の前々日十一月二日午前九時より千里山第一学舎大講堂において、落成式を挙行した。

定　礎　式

落成式に先だち、第一学舎玄関スロープの下定礎格納場所にて定礎式を挙行。学校側より白川理事長はじめ各役員、設計者村野藤吾氏、施工者竹中錬一氏列席まず吹田垂水神社神官の祭事に続いて、白川理事長、村野氏、竹中氏それぞれ玉串奉奠を了れば、"aut inveniam viam aut faciam"（「私は道を見出すか、或はそれを作るであらう」）とラテン語で銘された定礎の蓋をあけて定礎箱に左の品目を格納し、神官の祭事あつてめでたく終了した。

五ケ年計画施設　落成式

定礎箱格納品目録

（1）学校法人役員名簿
（2）学校の写真及学校法人役員の写真
（3）関西大学創立七十周年記念拡充資金寄附者芳名録
（4）設計者名簿
（5）施工者名簿
（6）才一期―才三期工事図面
（7）昭和三十年十一月二日の各新聞（朝日、毎日、産業経済、読売、日本経済の各朝刊）
（8）貨幣
（9）校章及バッチ（法、文、経、商、短大、高校、中学、幼稚園）
（10）其他関係書類

落　成　式

五ケ年計画施設落成式は、学校関係者のほか関西大学創立七十周年拡充資金募集に当り、特に好意ある寄附を寄せられた人々や建築に関与した人々、約一、二〇〇名を招待して盛大に挙行された。

開式と共に吹田垂水神社神官の厳かな祭事に続いて、祭文奏上。

続いて、白川理事長立つて、創立七十年に相当する年に、新築落成しましたことは、記念式典と二重の喜びとするところであり、大学はこれで満足せず、更に近代的な大学へと飛躍発展したいと挨拶すれば、岩崎学長も千里山の丘上に第一学舎、図書館共に完成し、学問と教育との担当者としてこれを利用出来ることを喜び、往々にして見られる超モダンを避け、質実剛健をモットーとする重厚さと量感とを持つ施設を讃えて挨拶する。

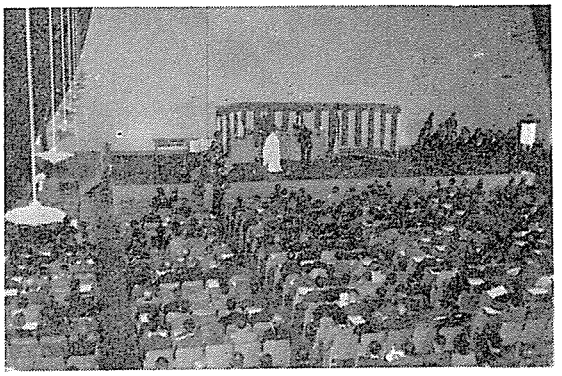
大学より村野・森建築事務所、株式会社竹中工務店へそれぞれ感謝状を贈呈した後、祝辞に移り、学生代表学部二部学友会委員長園田実君が立派な学舎で学び得る喜びを述べ、評議員会代表評議員会副議長樫本信雄氏は大学の壮挙を讃え、また校友会代表校友会副会長長柄金吾氏、教育後援会長石井寿一氏も落成の祝辞を述べ、盛大を極めて式を閉じた。

式終了後第一学舎中庭祝賀会場にて、祝宴を催した。

なお当日、本大学の絵葉書に、記念スタンプ捺印のため吹田郵便局が特設された。

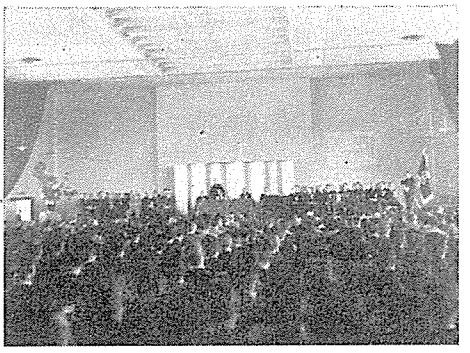
祝　詞

此乃千里賀丘乃上爾築建多留関西大学乃講堂乎厳乃磐境止祓清米氐神達剰立氐招奉里令坐奉留掛巻母畏伎産土乃大神、屋船久久能知乃大神、屋船豊受比売乃大神等乃大前爾乗水神社官司従六位竹内梅吉謹美敬比恐美恐美母白左久去年乃師走二十三日止云布日爾地鎮乃式仕奉里氐乞祈奉里志此学校波志母大神等乃厚伎広伎神徳乃幸乃随爾諸比開食志阿奈奈比守里給比志験母著久村野森建築事務所設計乃下爾竹中工務店乃工匠等賀打都墨縄乃一筋爾過都事无久違布事无久世爾誇良布倍久高久広久厳志久全久美志久造増志終閉多留乃美奈良受広伎庭園爾至留万伝内外乃装飾母心足比午設整比多礼婆八十日目波在礼杼母今日乎生日乃足日止祝比定米氐報謝乃御祭仕奉留可伎事止波成里奴故是乎以知氐大前爾御食御酒乎始米氐海川山野乃種々乃珍物乎高杮乃弥高爾置足波志氐棒奉良久乎平介久安介久開食志氐此乃新学舎波千年万世経止母揺来牟地震爾動伎傾久事无久吹荒毘降頻留雨風爾崩損布事无久鳴神乃災火神乃鵜事无久、引渡志多留鉄筋乃愈固良爾積重称多留粒土乃乱落都留事无久守里幸比給布波更奈里此乃学校乃教師諸々互爾心乎一爾志力乎協世氐教乃道爾勤志美学乃柱太久厳志久教草広久遍久育知立氐志米給比又此学校爾入立津学生等波教乃則爾違布事无久勉米学毘氐高伎徳操、深伎智織乎得志米給閉止今与里弥乃往光掛介氐言祝伎乞祈奉良久乎打仰具比乃高山高々爾見遙加須茅沼乃海原平介久開食世止恐美恐美母白須



落　成　式

母校創立七十周年を
校友擧つて祝う



校友総会

昭和三十年度校友総会は、菊花薫る十一月三日文化の日をトして、新装成つた千里山第一学舎の大講堂で華々しく開催された。此の日秋晴れの絶好の日和とて陸続と集る校友の数は千有余名、南は長崎の国境の島より北は北海道の辺陲の地から、老若を問わず〝心の故郷〟母校関西大学の懐を慕い、卒業後の発展を見んものと、左顧右眄、美しく造園された校庭を眺め乍ら坂を登りつめて白亜の殿堂第一学舎前に達する、古い卒業生には夢寝だにも想像せなかつた大学舎の展景、偉容に接して唖然とする人もある。

来会者には洩れなく各人の胸章名札、七十年小史、建築パンフレット、校友新聞「関大」が手渡しされる、定刻午後零時半には大講堂で演奏の母校在学生、ブラスバンドに迎えられ満員の盛況となる。明治、大正、昭和と時代は異なるが七十年間の白髪紅顔入り交つての団欒、「ヤアー久し振り、元気でやつてるか」の声があちこちに起る。

定刻、樫本常議員の司会のもとに開会宣言、三好副会長の開会の辞で総会の幕が切つて落された。次いで一同起立の上国歌を斉唱、引続き岩崎会長の新装なつた学園の発展のこと及び卒業生に対する後援感謝の挨拶があつた。そのあと長柄副会長が事業並に会計報告を担当、二十九年度の各種実施事項、即ち母校の発展拡充計画に協力、校友会の拡大強化、校友会入会式、バッチ（会員章）の普及、会旗の制定、会計報告等を詳細に説明、尚本年度に入り機関紙「関大」の発行があつた事の補足があつた。

（議事）司会者より本年は役員改選に相当するに付、会長が議長であるため仮議長を選任、司会者に一任となつたので、常議員中務平吉氏を仮議長に依嘱した。よつて中務仮議長より議案の説明があり先ず会長一名、副会長三名、常議員三十名、代議員若干名以上の選挙を行うのであるが、詮衡委員に一任、仮議長より次の九氏・（中務平吉、寺西武、佐伯五郎門上敏夫、阿部甚吉、樫本信雄、寒川喜一、神屋敷民蔵、安井章吾）が指名され別室に於て会長の推薦が行われ、岩崎前会長が再選した旨を報告（満場拍手）よつて岩崎会長議長席に就き、留任の挨拶があつた。

代議員については各卒業年度等を考慮せねばならないので後日前記詮衡委員の会で詮衡することになつた。次に長柄副会長の司会で次の通り出席二十二地区の支部長及び支部長代理の自己紹介に続いて閲歴、職業の披露があつた。宝塚支部長岡野衛士、西宮支部長雑古貞雄、川西支部長滝井義男、東京支部長中山幸市、大分支部長野田博、徳島支部長三宅二郎、明石支部長片山元蔵、京都支部長代理岡田浅次郎、布施支部長塚本万次郎、芦屋支部長田辺由治郎、岡山支部長神崎伝次郎、島根支部長代理成相彩之助、貝塚支部長代理平沢農一、岐阜支部長代理武藤六三郎、富山支部長代理安田倫蔵、守口支部長本多喜慶、伊丹支部長深川実、住吉支部長真鍋竹治郎、神戸支部長代理向井裕亮、旭支部長寺西武、姫路支部長代理滝利幸、大阪支部長中務平吉の各氏。其後校友席より越智比古市氏の緊急動議として、母校今日の隆昌を築いた歴代理事者に対して感謝状を贈呈するの提案あり、議長採擇の上、五人の起草委員を選ぶことにした。

校友視賀会

続々参集する校友

次に白川理事長より、全国校友の愛校心によつて吾が関西大学が斯くも発展した事に付、感謝の意を表明、それと同時に将来への協力支援方を懇請せられる挨拶があつた。引続き第一回卒業生である神奈川県湯河原在住の法学博士武田宣英氏のメッセージを阿部常議員代読。次に岩崎議長より理事者への感謝状起草委員として次の五氏（神宅賀寿恵、中山幸市、寒川喜一、佐伯五郎、越智比古市）を委員とする旨の発表があつた。

引続き校友懐旧談に入り、三重県選出代議士、防衛庁政務次官田中久雄氏の在学当時の想出話、更に洋画家（独立美術協会所属）鳥海青児氏のユーモアたつぷりの〝画家は一代学者は三代〟の寸話があつた。其の軽妙洒脱な話術は満場を爆笑魅了した。尚予定の北条秀司氏及び志村喬氏、辰巳柳太郎氏は各々所用の為欠席せられたのは残念であつた。

内藤正剛氏の発声で万才三唱

次で明治三十七年卒業の内藤正剛氏の発声で校友会万歳を三唱、三好副会長の閉会の辞によつて総会は午後三時終了した。

総会終了後第一学舎の中央校庭に於て校友祝賀会を開催、会場は千数百人収容の大テント張りで、紅白のダンダラ幕と柱巻、卓上は純白のテーブルクロスで被われ、メインテーブルに松の盆栽、其他十数ケ所に秋の屏風を競う盛花で飾られ清々しい大宴会場の雰囲気が醸し出されている。在学生のブラスバンドの演奏で学生歌、逍遥歌、応援歌等が次々と披露され、久井副会長の校友に対する支援謝辞其他母校近況を報ずる挨拶があり、白川理事長発声で乾杯、大饗宴となつた。

感謝状

母校關西大學は創立以来幾多の優秀な人材を社会に送りわが国の文化興隆に大きく寄与せられ学園の進展もまた年と共に目覚ましく今や私学の雄としてよくその声価を高められたことは校友一同の心から喜びとし誇りとするところであります。

これひとえに歴代理事者各位が学園の生々発展に捧げられた愛情と熱意と撓みない御努力の賜にほかなりません。

本日ここに校友相集い光輝ある母校創立七十周年の盛典を寿ぐに当り総会の決議をもつて学園理事者各位に深甚な感謝の意を表します。

昭和三十年十一月三日

關西大學校友会長

學校法人關西大學理事長殿

先輩後輩入り雑つてはいるが、やはり同期生は円陣を組み、顔を紅に染めて蛮声を上げ、昔の書生気質を発揮する、殊に遠来の校友は感極まつて腕を組み乱舞する状も見受けられた。薄暮に及んで名残り惜しく、掉尾を飾るものとして一同起立、ブラスバンドの伴奏で学歌を声高らかに斉唱、当日の呼物、記念品を片手に散会したのが午後六時であつた。

創立七十周年記念スタンプ

昭和三十年十一月三十日発行

關西大學學報　第二八五號

編集兼発行人　大阪市大淀区長柄中通二丁目一二番地　久井忠雄

印刷所　大阪市北区川崎町三八　株式会社　ナニワ印刷所　電話(35)(七二七一)(七二八〇)番

発行所　大阪市大淀区長柄中通二丁目　**關西大學學報局**　電話堀川(35)(七五六六)番　振替大阪二六七七二番

（22頁よりつづき）

しい戦績を物語る優勝旗、カップを捧げ、堂々入場し、放送研究部員の流れる様な各部の紹介に従つて本部前を通過整列を終ると、先輩現役の功労者の表彰が行われ、騎馬戦に移ればスタンドの観衆はおしみなく拍手を送る。

午後三時半入場門よりブラスバンドを先頭に、山本団長の引いる関西大学応援団が、昔日の紋付姿と学生服のコンビで入場し、その変遷を見事に表わして各方面に於ける応援の妙技を展開、紋付にひげのリーダー、制服に、白手袋のリーダーと対象の妙は一時間余に亘る長時間を楽しませて呉れるに充分であつた。勇壮なる行進曲につれて応援団退場すれば、代つて秀麗寮々生による仮装行列、お国自慢の数々北は北海道のアイヌ夫妻から南は鹿児島の西郷隆盛に至る十七府県代表、静岡の茶摘み女あり、江戸の火消あり、番丁の播磨お菊、阿波の十郎兵衛お鶴、高知の坊さん、長崎のお蝶夫人、雲助、唯々三万の大観衆をして笑いとその見事さに驚きとを与えるのみであつた。十一月の陽はいや西に傾いて夕闇迫る頃、千里山のあちこちより奇妙なる声と共に現れ出でたる七〇〇名に及ぶ黒人は、これぞ関大名物の土人踊りの土人達、突然原子雲と共に出現した怪物は、土人に襲いかゝり数をたのむ土人は手に手に槍を握つて怪物を征服せんとしてグラウンドは一大戦場と化す。戦いは点火されたたいまつの火が天をこがす大かゞり火となつて燃え揚がる頃終りを告げ、夕闇の中に火を囲んでよろこびに踊り狂う。グラウンドを埋めた数万の観衆も闇が愈々暗さを加えると共に家路につき、とつぷりと暮れた千里丘には名残りのかゞり火が燃え、二日間に渉る若人の熱情をこの一時に捧げた大学祭の幕を閉じた。

七十年略史

關西大學

明治初年以来欧米の文物が盛んにわが国に輸入され、殊に法制に関する研究の必要が痛感せられて、東京では若干の法律学校が設立され始めたのに呼応して、大阪控訴院などに在勤する法曹界の権威者たちが、この時代の進運と世人の要望とに応ずるため「汎く内外の法律及経済学を教授する一大専修学校を開」くべく、明治十九年十一月四日関西法律学校を大阪市西区京町堀願宗寺に開校したのが関西大学の創立である。

関西における法律学校の嚆矢として、社会より繋けられた多大の期待にそむかず、その声価を高め、最初は、創立者が仏法学者ボアソナードに師事していた関係上、主としてフランス法学を教授していた。開校と同時に志願者多く願宗寺では狭隘となったので、十九年十二月三日に東区淡路町の予章館に移転し更に二十年四月二十四日には北区河内町の興正寺に開校した。この開校にあたり大阪控訴院長児島惟謙があづかって力があった。

その後十七年間、本校は自身の学舎をもたず寺院等の借り住いで、しかもうす暗いランプの下で不便な夜間授業を行っていたが、大阪における本校の地歩が固まると共に一途発展の気運を示し、明治三十六年専門学校令の発布により、西区江戸堀に校舎を建築し、同年十二月移転、翌年一月専門学校となった。この江戸堀学舎の地は、二年半で市電附設のため、たちのきとなり、北区上福島に一〇七一坪余の土地を求め、これに明治三十九年十二月移転した。従来の七倍余の広さとなった。この時代より学友会も出来て、角力、柔剣道、テニスなどのスポーツも行われ「関西学報」のような雑誌も発行され、弁論会、擬国会なども催された。学生数も明治末年には一千人をこえ、弁護士試験判検事登用試験の成績は東京の諸専門学校を向うに廻し常に優秀を誇っていた。

大学令が大正七年末に発布されるや、本学は千里山に一万五千坪の地を購入し当時としては瞠目させる新学舎を建設してここに移転、ついで大正十一年六月五日認可を得て、大学令による旧制の関西大学は開校されたのである。

当時大阪においては、私立大学は勿論他に文科系の大学がほとんどなかった時に、本学は法学、経済、商業等の学術を教授して社会的知性の向上につとめ、また私立大学としての特殊性のため大阪における自由主義経済社会の形成に寄与するところ甚大なるものがあった。例えば「学の実化」、即ち学理と実際との調和、大学の開放、社会化をとなえ、屢々大阪市民のため文化、または学術講演会を催した。また教授を海外に派遣した。

大学昇格以来、本学の発展、飛躍は特にめざましく、大正十五年の大グラウンド及びクラブハウスの完成、昭和二年千里山学部本館、同三年図書館、同四年天六学舎の竣成と施設の拡張があいついだ。昭和三年以降は、着実なる学術研究にあるいは激刺たる学生スポーツに、東京諸大学と比肩して、その覇を争い、まことに「関西」の「大学」にふさわしい声価を喪かせた。武田宜英氏に初めて「陪審法論」をもって博士号を授与したのも昭和三年であった。

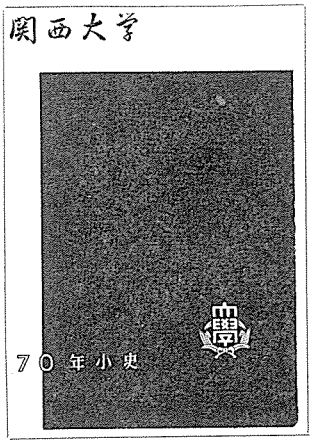
昭和九年には「関西大学研究論集」が発刊された。また施設も、膨張する学術研究と学生数とに応ずるため、着々施工せられ、昭和十年天六学舎本学本部の新築、同十三年第二学舎の竣成となってあらわれた。

昭和十二年七月七日日華事変勃発以後は、戦時中のため、本学もまた沈潜期に入るのやむなきに至った。たゞ、時局の要請にこたえるため、昭和十九年関西工業専門学校を開校した。終戦と共に、学部を改編して、法、文、経、商の四学部となり後学制改革に基ずいて、本学はいち早く昭和二十三年学校教育法による新制大学に移行し、法学、文学、経済学、商学の四学部をしてその充実を図り、さらに昭和二十五年には他大学に先立って大学院を設けた。これと併行して学術の研究は隆盛を誇るに至り、昭和二十一年岩崎卯一氏が博士号を授与されて以来、森川太郎、西本寫一、矢口孝次郎、三谷友吉、中谷敬寿、植田重正の諸氏が、続々博士号を授与された。

学制による大学組織機構の変革に伴ってこれに応ずる研究のための諸施設の新改築や近代化の必要に迫られ、本学は、学術振興と施設整備とに重点をおいた五ケ年計画を建て、着々その完成に努力した。これらの施設は、二十四年大学院学舎、体育館、二十五年恵風園教職員住宅、二十七年大学ホール研究室並に円形教室、同じく第二学舎増設、二十八年一高学舎二十九年天六学舎増設、秀麗寮及び三十年第一学舎図書館増築などの完成となってあらわれた。その他千里山花壇三万坪を購入して大学外苑とし、千里山学園の総坪数は実に八万有余坪となった。この間大学院は法学、経済学、文学各研究科の修士課程の上に、さらに昭和二十八年博士課程が設置されて、本学は研究機関として完備した。ためにこの年より教授海外留学制度を復活し、世界の学会との交流並びに新しい学術文化の吸収につとめるようになった。

かくして昭和三十年十一月四日創立七十周年記念祭を迎えたのである。

まことに、本関西大学七十年の歴史はわが国文教の興隆は勿論、あるいは文化の維持に、あるいは社会的知性の向上に寄与して来た意義ある教育文化史ということが出来るであろう。



創立七十年の歴史を綴る

―創立七十周年記念出版物―

創立七十周年記念行事実行委員会では、本学七十年の高等教育史を顧み、その学問的業績を顕揚し、また歴史的伝統のあるところを見きわめて、その上に築かるべき将来の発展への礎石たらしむべく、「關西大學七十年史」の編纂を企て、昨年八月より資料の蒐集整理にとりかかり、年史の執筆は文学部歴史学教授横田健一氏に委嘱し、助手として、法学部助手原英二、文学部助手薗田香融両氏を選び、完璧を期して着々進められている。

「關西大學七十年史」は、A5判、本文約五〇〇頁、写真アート刷約二五〇頁、布クロース装幀、箱入の豪華版で、刊行は来春となる予定である。

「關西大學七十年史」と併行して、大学史の概要を写真をもつて記述し、大学内外の人々に広く頒布して、本学の歴史と共にその現在を知悉させる目的で「關西大學七十年小史」を刊行した。これは「七十年史」に使用される写真を主として編纂され、総アート五二頁の美装本となつている。発行部数は三万で、記念式典に頒布された。

更に創立七十年を記念して、現在的水準における学問的業績をわが国の学界に発表するため、「關西大學創立七十周年記念論文集」を刊行する。これは、法学論集、文学論集、経済論集、商学論集の四部にわかれ、各学部学会のスタッフが執筆し、A5判、三〇〇内至五〇〇頁、洋装本として出版される予定で、目下印刷中である。

各論集の執筆者を紹介すると、

（掲載順・敬称略）

「法學論集」

岩崎卯一、中谷敬壽、池田栄、内田修、植田重正、中義勝、和田豊二、木村健助、福島四郎、明石三郎、西本寛一、池垣定太郎、岩本慧、石尾芳久

「文學論集」

井上吉次郎、岡野留次郎、大小島真二、田中熙、秋山博愛、魚澄惣五郎、末永雅雄、高橋盛孝、藤本勝次、三上諦聽、横田健一、飯田正一、澤潟久孝、金子又兵衛、吉永登、大西昭男、小野勇、玉木意志太牢、進藤浩二郎、角田文雄、広瀬捨三、堀正人、山本栄一郎、見次直雄、三木治、橋田慶蔵、石浜純太郎、広岡英雄、星野信夫、小方厚彦、福本喜之助、入江深、河村信一

「経済論集」

高木秀玄、市原亮平、三谷友吉、澤村榮治、杉原四郎、矢口孝次郎、鑄方貞亮、東井正美、荒井政治、森川太郎、松原藤由、越後和典、宇田米夫

「商學論集」

山崎紀男、賀屋俊雄、今西庄次郎、河村宜介、板橋菊松、鯰江城夫、植野郁太、酒井文雄、河合信雄、安田信一、河野稔、寺尾晃洋、柏尾昌哉

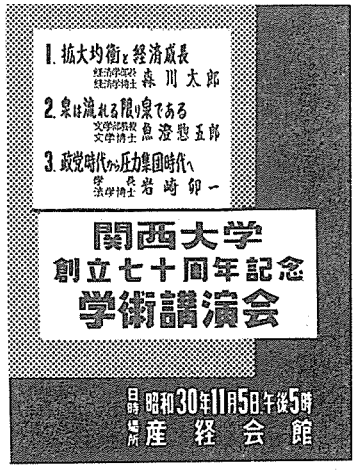
關西大學七十年史

A5判・約七五〇頁・布クロース装幀・箱入

關西大學創立七十周年記念出版物として刊行しますが、刊行部数が僅少でありますので、御入用の方々は予め頒価金壱千円也を添えて御予約下さるよう御願いします。

關西大學出版部

振替大阪一二八七五番



創立七十周年記念 學術講演會

創立七十周年を記念し、これを機会に一般市民に大学を開放し、本学の学術水準を更に一段と知悉させるため、創立七十周年記念学術講演会を、十一月五日(土)午后五時より産経会館において開催した。

開会前より一般人や学生などが続々参集し、一、〇〇〇名余に達し、会場の八割程度を埋めた。

定刻より稍々遅れて、三木治文学部長司会の下に、法学部木村健助教授が関西大学創立七十周年に達し、ますます大学の充実されている旨の開会の辞を述べ一同に感銘を新ならしめた。

次いで講演に移り、

拡大均衡と経済成長　経済学部長 経済学博士　森川太郎

泉は流れる限り泉である　文学部教授 文学博士　魚澄惣五郎

政党時代から圧力集団時代へ　学長 法学博士　岩崎卯一

それぞれ専門の学者として、その学識の深さに蘊奥を傾けて、説き来り、説き去り、真理の扉を開いて満場の聴衆を魅了した。

最後に商学部長板橋菊松経済学博士の閉会の辞をもつて、秋の夜意義ある講演会の幕を閉じた。

（なお、講演要旨は追つて学報に掲載する予定）

関西大学
創立七拾周年記念
大学祭

復活第2回
土人踊り

日時 11月5日,6日午前9時から
場所 関西大学千里山学舎
(但し阪急電車千里山線大学前下車)

関西大学大学祭委員会

記念式典を祝して
大学祭
盛大に挙行——戦後最高の人出

第二十六回大学祭は、栄ある本学創立七十周年の記念行事の一環として、菊薫る十一月五、六両日千里山学園において盛大に挙行された。両日共秋晴れの天気、新装なつた第一学舎、円型閲覧室を背景に、改装直後の清々しいグラウンド一杯に繰り展げた大学生、高校生、中学生、幼稚園児の数々の熱戦遊技、第一学舎講堂に於ける文化会各部、雄弁会、放送研究会、の出演に依る演技熱演、大学院円型講堂に於ける映画研究部の映画、第二学舎に於ける学術研究部、応援団、文化会による各種の展示会等々盛沢山の行事は、戦後最高の人出を見た三万有余の大観衆の足を夕やみせまる頃まで止めるに充分であつた。

才一日 永井執行委員長の開会宣言に大学祭の幕は切つて落され、最初の一、二部合併に依る野球戦が開始され、一方トラックではレクリエーション競技として一中一高学生教職員父兄校友参加によるパン食、煙草火つけ、拝借競走などで面白おかしく日頃の勉強仕事から解放されてゴールにかけこむ。続いて府下高校生八〇〇米競走が行われ、その興奮がさめ切らぬ中に南の空に読売新聞社のヘリコプター飛来し、グラウンド上を数回旋回の後見事に着陸花束とメッセージを岩崎学長に送り、再び数回旋回し大学祭の祝賀飛行を終る。

フイルドでは国体に出場し大阪優勝の原動力となつた馬術部が、障害飛越競技に妙技とスリルに拍手を受け、続いてフイルドに集つた全学生に対して学友会々長岩崎学長は、青春の血をたぎらせて学生生活を駆歌せよと訓示のあつた後、一二部短大合同のラグビー試合に熱戦を繰展げ、第一日の最終を飾る体育部対抗リレーは全学生観衆の拍手歓声の中に三十五部の斗魂を表わして物凄い土煙と共に終りを告げた。

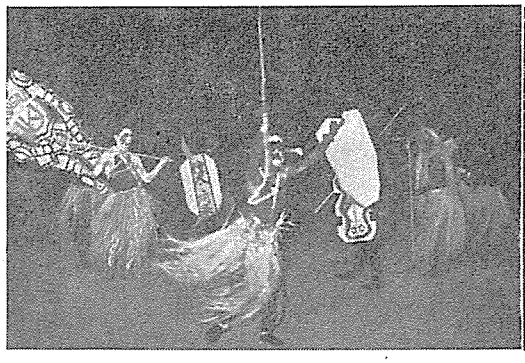
一方講堂の軽音楽、邦学等は満場の拍手の中にその演技を展開し、アンコールにアンコールを重ね遂に演出が叱られる始末に嬉しい悲鳴を挙げる有様、又第二学舎の展示会場も例年にない充実で特に学術研究部に依る七十周年資料展示会場は質、量共に誠に見事で他を圧していた。

才二日 昨日に続いて早朝より上天気観衆の出足も好調十時には既に万を越える有様。前日同様予定より三十分早く開会し、十時半本学幼稚園園児に依る「シヤボン玉」その外のかわいい遊技に拍手盛、馬術部の障害飛越は連合軍対抗戦を行い、続いてフエンシング部の野試合をフイルドで展開すれば一般観衆には珍らしい点もあつて大好評、レクリエーション競技は昨日以上に出場者も多い拝借競走に身替りとして名刺を持たせた秘書を走らせた岩崎学長、ひつぱられる様に走る山田学生部長、借物が先に走る等々笑いの連続、拍手拍手。

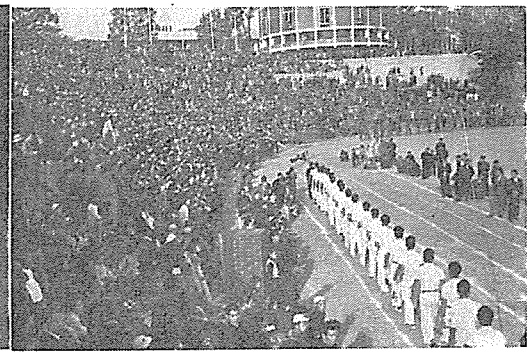
続いて一中生の合同体操は秋の陽をあびて軽快な指揮者の笛一つに見事な棍棒体操をリズムカルに展開し、その清潔な服装と共に賞讃をあびた。体操部の公開練習は平行棒鉄棒に肝を奪う妙技を見せ、女子平行棒の美しいフオーム、男子鉄棒のスリルに観衆を完全に魅了した。続いて一高生による合同体操はマスゲームの美しさを充分に愉しませた。

文化会、学術研究部其の他による学舎内の諸演技は、昨日にも増して来場者に感銘を与えたが、他方特設競技場では拳法、レスリング、相撲等肉弾相打つ熱戦に、観覧者を楽しませれば、硬式庭球コートでは、倉光杯の争奪戦を展開、バドミントン、空手、バレー、卓球等夫々熱戦秘術を公開。空より航空部の祝賀飛行が終りを告げる頃、グラウンドでは河合体育会本部長を先頭に関西大学が誇る体育会三十五部が、夫々部旗を先頭に輝やか

(19頁へつづく)



名物土人踊り



大学祭風景

関西大学七〇周年記念

高一 10月29・30日 文化祭 展示会同時開催

関大 10月28日 映画祭 展示会同時開催

10月23日 体育祭 雨天の場合25日

於 関大一高校内

主催・関大一高生徒会

關西大學第一高等学校 七十周年記念行事

付属第一高等学校に於いても、七十周年を記念して、大学部の行事に参加することは勿論一高主催の映画祭、体育祭、文化祭など、多彩なプログラムを展開し、生徒等日頃の研鑽精進ぶりを内外に問うた。

入口　体育祭

体育祭

十月二十三日(日)—関大一高グラウンド—

全校生徒が紅白に分かれ、各種競技で得点を争ったが、中でも午後のプログラムの最初に行われた、スポーツ行進は、国民体育大会その他の大会で優勝の栄冠を勝ち得た各スポーツ部の成果を一場に集めた体育祭の圧巻だった。因みに、本年度の国体参加は、ヨット、水泳、馬術、フエンシングの四クラブで、その中、ヨット、馬術が優勝の栄を母校に飾った。

映画祭

十月二十八日(金)—関大一高講堂—

文化祭の前夜祭を兼ねて、若い学生の映画鑑賞に資するため、生徒会主催の講演及び映画が催された。

〔講演〕"映画の鑑方" 朝日新聞社映画評論家 鳥海一郎氏

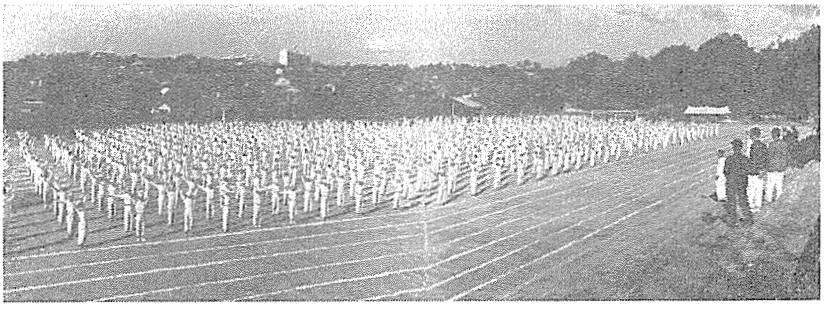
〔映画〕"夜明け前" "血槍富士" "野獣大陸" その他

文化祭 演劇会

(十月二十九日(土)—関大一高講堂—十月三十日(日)—右に同じ)

演劇部、音楽部、弁論部、有志生徒により、日英弁論大会、狂言「大刀奪」、喜劇「署長さんはお人好し」、吹奏楽、独唱、日本舞踊などが催されたが、本年は、一高教職員の合唱団が結成され、「ヴォルガの舟歌」「家路」のコーラスは内外聴衆の拍手を浴びた。

プログラムの最終は映画で、ユネスコ提供の文化映画の外二十九日は「胡椒息子」三十日は「東京物語」が上映された。文化祭の為、講堂には舞台諸設備や暗幕が設置され二日間は、賑かな劇場だった。



合同体操

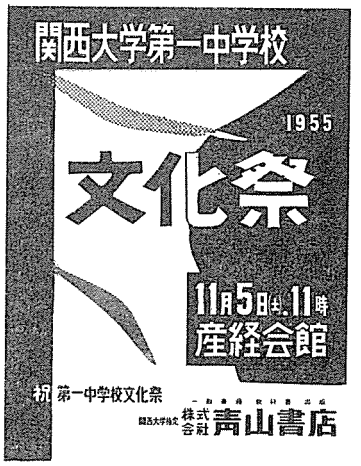
文化祭 展示会

(十月二十九日(土)—関大一高校舎各教室—十月三十日(日)—右に同じ)

生徒会各クラブ(アイスホッケー、馬術、フエンシング、剣道、ヨット、体操、卓球、サッカー、野球、理化学、生物、写真、映画、弁論、拳法、水泳、新聞、郵便友の会、地歴、図書)の過去一年間の成績物が展示され、各クラブ活動への理解と関心を深めた。なお三十日には、運動場に於いて柔道、体操、フエンシング、拳法、馬術、庭球、剣道各クラブの模範試合、公開練習が実演された。記念式典終了後、全校生徒に、七十年小史及び記念手拭配布。改めて先輩の残した足跡を振り返り、関大生の中堅となる一高生の責務を認知し直した、諸行事だった。

更に今後に残っているもので、生徒会の考えている一高七十周年記念誌の編纂の実現が期待されている。

化学展示会



創立七十周年記念

關大一中文化祭

中学校として破格の行事

関西大学創立七十周年記念行事の一環として第一中学校恒例の文化祭は、十一月五日（土）十一時より桜橋産経会館に於て華々しく開幕されました。

一中文化祭は例年日本橋松坂会館で催されていたのですが、今年度は大学当局が十一月五日の夜、記念学術講演会場に借りられたので御好意により昼間を使用させていただいたものであります。中学校としては校史に記録されるべき盛事であった事は、来会者千数百名、招待小学校も二十校を数え、さしもの大会場が終始埋めつくされたことを以て窺えるでありましょう。

当日は第一中学校同窓会総会も併せて開催せられ、四百余名の同窓生が在校生及び父兄と一堂に会して、まことなごやかな雰囲気のうちに会を進行し得たことも特記せらるべきであります。

尚連日の行事にお疲れのところを、わざわざ早朝から御来場下さいました白川理事長先生はじめ、学内の諸先生方にまず以て紙上深甚の謝意を捧げておきます。

プログラム

(1)開会の辞　水沼生徒会副会長
(2)会長挨拶　三島校長
(3)ハーモニカ合奏　一・二・三年有志
(4)理科実験　科学部
(5)弁論　弁論部
(6)音楽演奏　音楽部
(7)名誉会長挨拶　稲員PTA会長
(8)PTA特別出演　PTA有志
（以上プログラム(9)—(13)同窓会）
(9)会長挨拶　亀田同窓会長
(10)名誉会長挨拶　三島校長
(11)びっくり劇場　恩師・役員有志
(12)音痴歌くらべ　会員有志
(13)学歌斉唱　全会員
（再び一中文化祭に移る）
(14)合唱　三年有志
(15)演劇「杜子春」　演劇部
(16)音楽演奏　大阪市音楽団
(17)万歳三唱　稲員PTA会長
(18)閉会の辞　橋本生徒会会長

以上舞台関係でありますが二階ロビーに於ては職員、生徒の書道、絵画、写真工作蒐集品等の展示を行いました。

演劇「杜子春」　才一幕

ハーモニカ演奏

一中一高学部を通じての綜合文化祭を希望する

以上簡単に本年度文化祭内容をお伝えしましたが、最後に指導に当った一員としての感想を述べさせていたゞき、併せて内外識者の本文化祭に対する御批判をお願いしたいと存じます。

中学校文化祭は出来得るならば学内に於て挙行致したいのでありますが、先にも述べました通り中学校独立の校舎を持たぬ為、時間的場所的にやむを得ぬ制約をうけ外部の会館を使用している状態です。関西大学拡充第二次五ケ年計画により中学校の千里山移転の際は、堂々たる会場を持ち演劇等におきましても舞台装置照明すべて生徒の手で行われる常態に戻れるものと期待しております

技術の点から申しましても甚だ意に満たないところも多いのですが、年令的に大半の生徒は未だ確固たる趣味嗜好を持たず五里霧中の状態で、例えば音楽部におきましても楽譜を満足に読めない者、楽器の全然鳴らないところから指導するのですから、担当の先生方の苦労は並大抵ではありません。それがこの文化祭を目標にようやく一応の基礎を習得した途端に卒業致します。彼等がその得たものを更に伸ばしてゆくために望むことは一中一高学部を通じての絶えざる練習であります。お互いの学生生徒が接触し合う機会を数多く持たしていたゞくことであります。一例として大学の文化祭に中学高校の演劇その他を一本でも組入れられることを学友会並びに指導の先生方に切に希望したいと思います。合同練習の成果は今年団体で優勝しました一高ヨット部にもみることが出来ます。

学問の面のみならずクラブ活動のすべての方面に関西大学が一貫教育の成果を発揮することの一日もはやからんことを念願し、文化祭の記述を終ります。

式典準備の経過

創立七十周年を迎えるに当り記念式典など多彩な行事を行うことは、昨昭和二十九年八月頃より企画され、記念行事実行委員会を設けて、種々の準備を着々と進め、ために過日滞りなくこの栄ある記念行事を終了することが出来ました。こゝにそれぞれの掌にあたられた方々の芳名を記してその労を稿いたいとおもいます。

関西大学創立七十周年記念行事実行委員会

一、本委員会は本学の評議員、校友会々長、同副会長、七十周年記念行事準備委員長、同副委員長、学長、部長、校長、館長、園長及び局長を以つて次の如く組織編成した。

（五十音順・括弧内役職・重出者省略）

委員長　白川朋吉（理事長）

副委員長　岩崎卯一（学長）
久井忠雄（専務理事）
矢野文雄（常務監事）

委員　明石三郎（評議員）
阿部甚吉
飯田国三郎
池田信之助
板橋菊松（前商学部長）
井戸崎好次（評議員）
井上竜男
今井康兼
今西庄次郎
岩本公夫
宇佐美正祐（理事）
江里口春志（評議員）
大石雄一郎
大小島真二
大島鐐吉
大島武夫
織田佐代治
大月伸
桂宅賀壽恵
神屋敷民蔵
神宮寺一
寒川喜一
木谷宰三
木原繁実
木村健助（理事）
近藤政士（評議員）
佐伯三郎（短大部長）
沢村栄治（評議員）
下条小野右衛門
角田好太郎
鈴木祥藏
図師親徳
関豊馬
高垣善一
高棕正次
竹沢喜代治
戸根泰雄
内藤剛
中谷敬壽（大学院部長）
中村敏治郎（評議員）
中村金正
浪江源治（評議員）
長柄万吾（校友会副会長）
西尾専太郎（監事）
西羽英夫（評議員）
西村治三郎（評議員）
西山四郎（評議員）
西本寛一（理事）
根津菊次郎（評議員）
林信夫
原田鹿太郎
春原源太郎（理事）
久松鹿治（評議員）
平井三
福島四郎（前法学部長）
藤野春三（評議員）
松原徳三郎
松尾高一
松葉徳三郎
政井繁芳（評議員）
福田武

二、本委員会の下に左の係を置いて次の事務並びに行事を分担した。

(一) 総務部（主）
久井忠雄
桂田雄一郎
三島律夫
山田松太郎
岩崎卯一（主）

(二) 十周年史並びに記念論文集係
山田松太郎
矢野文雄
安井章吾
矢口孝次郎
神屋敷民蔵
林信夫
森田健一郎
横川太郎
矢口孝次郎
沢村敬逸
川上孝
鈴木義祥
中村栄蔵
羽寺野尾堅二
杉原晃洋
今西庄次郎
四郎
三島律夫
羽野敬二
天野敬太郎
三木好
岩崎卯一
村上仙三
三木村健助
賀屋俊雄（法学部長）
植田重正
和田豊二
脇野徳三郎（評議員）
四辻章吾
吉田三七雄（評議員）
山田松太郎（学生部長）
山崎辰雄（短大学生部長）
山口敬義（評議員）
保井剛一（評議員）
矢口孝次郎（教授）
森川家治（高校長）
森田紹一（理事）
村尾寛静
水谷明（評議員）
三宮好万次（校友会副会長）
三島綱男（理事）
三谷律夫（前経済学部長）
三島一（中校長）
前川太良（文学部長）
木村治門
松原睦鴻
松葉藤由
松尾高一
政井武
福田繁芳（評議員）

(三) 校友祝賀大会係
三木好万次（主）
岩崎卯一
大石雄一郎
織田佐代治
桂宅賀壽恵
加藤昌秀
河内兼三
佐伯五郎
木原繁実
高橋節一
長沢健
中村寛一
西本寛一
春原源太郎
前川田
森太郎

(四) 文化祭・学研祭・大学祭等係
見藤直雄
原次弘二郎
山田松太郎（主）
天野敬太郎
三上紀男
広岡諦
英雄

(五) 記念式典係
三島律夫（主）
池田信之助
今田中一勤
富田恭二郎
村上仙三
山影耕作
水野三郎
松原藤由
中山厳
鈴木戸竜男
池田信之助
榎本金次郎
清井良祐
鉄井良男
平井三朗
馬渡兵衛
山口辰雄
有斉福
福政信健
菊男俊
且本
松富
吉二郎

(六) 記念祝賀・慰霊祭係
桂岡忠雄（主）
片岡長次郎
松本右衛門
水野三郎
安井章吾
神田一民蔵
中屋敷
松村上
田中仙
板橋
中谷
敬壽
菊松
三福谷島
四吉友

(七) 記念講演会係
大木山村健助（主）
平井三朗
三木豊二
和田治
三校友祝賀大会係
岩崎卯一
大石雄一郎
梅原貞次郎
阿部甚吉
大島武夫
月桂
大田佐雄治
織田佐代治
寒川川
国分田好
角田好太郎
寺柄
金吾
長沢健
高橋節一
西本寛一
中村寛一
務平吉
春原源太郎
前川田
森太郎
三井
久井
原西田鹿
治三郎
忠雄
長柄
金吾
寺田
角好
国分伯
吉広喜一
神屋敷民蔵
桂宅賀壽恵
大月伸
梅原貞次郎
阿部甚吉
三福谷島
四吉友
中谷
敬壽
菊松
三上仙
田中村
松本
且本
吉
松富
二郎
有斉福
政信健
菊男俊
榎本金次郎
清井良祐
鉄井良男
平井三朗
馬渡兵衛
山口辰雄
三上紀男
広岡諦
英雄

謝辞

去る昭和二十八年十一月より關西大學創立七十周年記念拡充資金募集に付御寄附を御願申上げました処、各位には其の趣旨に深き御理解を御示し戴き、御蔭を以て所期の拡充計画がとどこほりなく完成致しました、此処に謹んで御礼申上げます。

尚本事業完成に就ては（自昭和二十二年十月至昭和二十三年六月）の間に募集致しました關西大學拡張及び校友会館建設資金の御寄附者並びに昭和二十五年十一月以来、本大学拡充資金の寄附保険に御契約下さいました各位の御力に負ふ所も大なるものがあるのでありまして改めて深甚の謝意を表する次第であります。

御援助により完成されました拡充五ケ年計画完成表を下の通り御高覧に供しますと共に、併せて今後の学園発展にも倍旧の御協力を賜りますよう切に御願申上げます。

追而　御寄附は本年度末まで引続き拝受致しております。

昭和三十年十一月四日

關西大學　學長　岩崎卯一
關西大學理事長　白川朋吉

關西大学拡充五ケ年計画完成表（昭和三十年十月現在）

建物名称	起工年月	完成年月	建坪	延坪	構造
大学ホール並に研究室新築	昭和二六・四	昭和二七・四	二三四・四五	四三五・〇〇	鉄筋コンクリート造瓦葺二階建
第一学舎第一期新築工事	二六・八	二七・四	一六二・四三	四八七・一六	〃　三階建
〃　第二期　〃	二八・二	二九・九	四五五・三	一、三六七・〇〇	鉄骨鉄筋コンクリート造三階建、一部四階
〃　第三期　〃	二九・三	三〇・一〇	六〇六・三五	一、〇九九・二八	〃　二階建一部中二階
図書館増築工事	二九・三	三〇・一〇	一五三・九四	五八一・〇七	〃　三階建書庫六階建
第二学舎第一期増築工事	二七・三	二八・二	一二八・七三	二六八・九八	〃　二階建
第一高等学校校舎新築工事	二八・五	二八・一二	三五二・五〇	七八五・一〇	〃　三階建瓦葺
〃　講堂	二九・三	三〇・三	一六〇・八五	一六〇・八五	鉄骨造平屋建瓦葺
〃　理科教室	三〇・三	三〇・九	四〇・〇〇	四〇・〇〇	木造瓦棒葺平家建
〃　附属食堂	二八・一二	二九・一	三八・〇〇	三八・〇〇	〃
尚志館第一期増築	二八・六	二八・八	八三・九四	一五三・九四	木造二階建瓦棒葺
〃　第二期　〃	三〇・八	三〇・八	三三・四三	四八・四三	〃
西研究室改造工事	二八・五	二八・一二	三六・八五	八八・五二	木造瓦葺二階建
秀麗寮第一期工事	二八・二	二八・三	八九・〇〇	八九・〇〇	〃　平屋建
〃　第二期　〃	二九・三	二九・九	一五七・九三	一五七・九三	〃
〃　第三期　〃	三〇・四	三〇・九	六三・〇〇	一二三・〇〇	木造瓦棒葺二階建
幼稚園々舎増改築	二六・三	二六・六	一〇九・〇〇	一〇九・〇〇	木造瓦葺平屋建
天六学舎増築工事	二八・四	二八・九	七〇・六〇	三七・六九	鉄筋コンクリート造地上四階、地下一階建
合計			二、九〇五・四〇	六、三九九・〇二	
千里山学舎学内道路舗装				九三・〇〇	通路アスファルト
〃　植林				七〇〇・〇〇	建物前部コンクリート
〃　造園				二、二〇〇・〇〇	桜百本、紅葉三十本芝張り植樹、開墾樹木移植

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十年十一月三十日発行（毎月一回三十日発行）
關西大學學報　第二八五号　十一月号